

ヲ怠ルトキハ制裁トシテ協諾契約提供ノ權利ヲ失ヒ尙ホ過怠破産者トシテ罰セラル(舊商法第九百七十九條、第九百三十八條)

破産手續ノ費用ハ債務者又ハ之ニ準スル者カ破産ノ申立ヲ爲ス場合ハ之ヲ豫納スルコトヲ要セス裁判所カ必要ト認ムル限度ニ於テ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨スルモノトス此費用ハ固ヨリ財團債權トシテ隨時支拂フヘキモノトス(草案第三十五條第一號、第四百四十五條前段、商法施行法第四十條、舊商法第三十二條)

## 二 債權者ノ申立

債權者カ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ニシテ是レ

其最モ普通ナル場合ナリトス(草案第九百四十一條、舊法第九百四十一條)況ク債權者ト云フカ故ニ期限附債權、條件附債權ニテモ總テ將來破産債權者タルコトヲ得ヘキ者ハ皆此申立權ヲ有スルモノトス相續財産ニ對シテハ相續債權者亦此申立權アリ又外國ノ立法例中ニハ其申立債權ノ額ハ或一定ノ度ヲ超ユヘキモノト爲シ其額ニ制限ヲ置ケルモノアリ然レトモ我現行法並ニ草案ハ其主義ヲ採ラス破産ノ申立ヲ爲ス債權者ハ其債權ニ付キ既ニ確定判決又ハ執行力アル債務名義ヲ有スルコトヲ必要トセス然レトモ自稱債權者カ破産ノ申立ヲ爲スコ

トナキヲ保セサルカ故ニ其申立ヲ爲スニ當リテハ必ス債權ノ存在及破産ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要ス(草案第四百四十一條第三項)現行法ニハ斯ル明文ナキモ理論上固ヨリ斯ノ如クナラサルヘカラス何トナレハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ債權ノ存在及破産ノ原因ヲ調査スル必要アレハナリ尤モ外國ニ於テ既ニ破産ノ宣告アリタルトキハ申立人ハ破産ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要セス(草案第四百四十二條)

債權者カ破産ノ申立ヲ爲スコトキハ裁判所カ相當ト認ムル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス若シ之ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ其申立ヲ棄却スルコトヲ得(草案第四百四十四條、舊法第五百二十一條及第七百二十一條)ニ於テ債權者ニ執行費用ヲ豫納セシムルト一般ナリ是レ破産ハ債權者ノ利益ノ爲メニスル強制執行ナレハナリ若シ債權者カ右ノ費用ヲ豫納セサルニ拘ラス裁判所カ其申立ヲ棄却セサルトキハ訴訟上ノ救助ト同一ノ理由ニ基キ國庫ヨリ假ニ之ヲ支辨ス又豫納金カ不足シタルトキモ亦國庫ヨリ之ヲ支辨ス是レ然ラスンハ破産手續ヲ遅延セシムルヲ以テナリ職權ヲ以テ破産ヲ宣告

シタル場合ハ國庫カ假ニ支辨スルハ勿論トス(草案第四百四十五條末段、國庫法第六十九條)是レ其公益ニ關スルカ故ナリ而シテ該費用ハ後ニ財團債權トナル

第三 破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルコト

裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用タモ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得但申立人カ其費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ヲ豫納シタルトキハ此限ニアラス(草案第四百六條)元來破産ノ目的ハ破産財團ヲ公平ニ破産債權者ニ分配スルコトヲ目的トスルモノナルニ破産財團カ斯ノ如ク少額ナルキハ破産ヲ開始スルモ無用ニ屬スルカ故ニ寧ロ之ヲ棄却シテ費用ヲ節約セシムルニ若カス尤モ相互保險會社又ハ産業組合ニ於テ社員カ無限ノ責任ヲ負フ場合又ハ一定ノ金額ノ限度トシテ責任ヲ負フ場合ハ例外ナリ何トナレハ是亦破産財團ニ屬スレハナリ(草案第四百七條)而シテ破産財團ノ多寡ニ對スル判斷ハ裁判所ノ自由ナル見込ニ依リテ之ヲ爲ス別除權ニ付テハ其擔保スル債權額ヲ控除シ殘餘ヲ以テ破産財團ニ屬スルモノトナシテ之ヲ算スヘク否認權ニ付テハ其行使ノ結果復歸シタル財產ハ破産財團ニ屬スヘキナリ又裁判所カ若シ費用

ヲ償フニ十分ナリトシテ破産ヲ宣告シタル後破産財團ノ不足ナルコトヲ發見シタルトキハ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得(草案第四百三條)然レトモ破産ノ宣告ハ現行法ニ於テハ身上ノ效果ヲ導キ(商法第四百三十四條)其他特別法ノ規定ニ依リテ其效果ヲ導クモノ尠ナカラス然ルニ破産財團カ寡少ニシテ破産手續ノ費用タモ償フニ足ラサルカ爲メニ破産ノ申立ヲ棄却セラルトキハ破産財團ノ充實セル者ヨリモ却テ利益アリト云ハサルヘカラス是レ不當ナリ仍テ右ノ理由ニ依リ破産ノ申立カ棄却セラレタルトキト雖モ債務者ヲ以テ破産者ト看做ス旨ヲ規定セリ(草案第四百四十條)現行法ニ於テハ破産財團カ破産手續ノ費用ヲモ償フニ足ラサル場合ト雖モ破産ノ宣告及公告ヲ爲ス唯爾後ノ手續ヲ停止スルノミ然レトモ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル破産者ノ財產アルニトシテ證明スルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ即時ニ其手續ヲ再施ス而シテ破産手續ノ停止繼續中ハ債權者ハ自由ニ各自其強制執行ヲ行フコトヲ得(草案第九條)若シ然ラズンハ破産者カ其財產ヲ他ニ費消スルノ虞アレハナリ要スルニ現行法ニ於テハ破産ノ宣告ニ付キ茲ニ第

三トシテ掲ケタル要件ヲ必要トセサルナリ

### 第二節 破産ノ決定並ニ之ニ伴フ手續

破産ノ申立カ適法ニシテ破産原因備リ且破産財團ノ寡少ナラサルコトノ見込立  
 チタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス(草案第百三十一條 舊商法)蓋シ破産  
 ハ任意的口頭辯論ニ基キテ裁判ヲ爲スヲ以テ決定ヲ以テ其裁判ノ形式トス之ニ  
 對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得(草案第百九條 舊商法)破産決  
 定書ニ破産宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス(草案第百四十八條 舊商法)草案ニ  
 テハ破産ハ其宣告ノ時ヨリ效力ヲ生スト爲シタルカ故ニ特ニ此記載ヲ必要ト爲  
 スナリ而シテ其宣告ノ時トハ何レノ時ヲ謂フカニ付テハ異論ナキニアラスト雖  
 モ裁判官カ口頭辯論ヲ爲シテ破産宣告ヲ言渡シタルトキハ其時ニシテ其他ノ場  
 合ニ於テハ裁判官カ破産決定ヲ確定シテ決定書ヲ作成シ之ニ署名捺印シタル時  
 ト爲スヲ至當トス

裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ破産管財人ヲ選任シ且債權届出ノ期間第一回ノ債  
 權者集會ノ期日及債權調査ノ期日トヲ定ム第一回ノ債權者集會ノ期日ト債權調

査ノ期日トハ之ヲ併合スルコトヲ得(草案第百四十九條 舊商法)是レ破産財團ノ額ノ  
 僅少ナル場合若ハ破産債權者ノ數ノ多カラサル場合若ハ強制和議ノ提供アリテ  
 其成立ノ見込アル場合等ヲ見タルモノニシテ斯ル場合ニハ其期日ヲ併合スルヲ  
 以テ利便多シトスレハナリ

裁判所ハ破産ノ宣告ヲ爲スト同時ニ一方ニ於テハ破産財團ニ屬スル財産ヲ所持  
 スル者及破産者ノ債務者ニ對シ破産者ニ其財産ヲ交付シ又ハ辨濟ヲ爲スヘカラ  
 サル旨ノ消極的禁止ノ命令ヲ與ヘ他方ニ於テハ一定ノ期間内ニ其財産ヲ所持ス  
 ルコト又ハ債務ヲ負擔スルコト若シ其財産ヲ所持スル者カ別除權ヲ有スルトキ  
 ハ其債權ヲ破産管財人ニ届出ツヘキ旨ノ積極的行爲ノ命令ヲ與フルコトヲ要ス  
 是レ皆破産財團保全ノ爲メナリ(草案第百五十條 第一項 舊商法)然ルニ其消  
 極的禁止ノ命令ハ唯破産者ト行爲ヲ爲サントスル者ニ對スル注意的ノ性質ヲ有  
 スルニ止ル縱令此命令ナカリシトスルモ或ハ破産財團ニ對シテ二重拂ヲ爲スノ  
 危険ニ遭フコトナキニアラス(草案第百五十四條 然ルニ届出命令ニ至リテハ之ニ因リ  
 始テ其届出義務ヲ發生スルモノトス若シ其届出義務ヲ怠リタルトキハ之ニ因

リテ生シタル損害例ハ之カ爲メニ特別ニ爲シタル換價、配當等ノ費用、其間ノ價ノ下落又ハ甚タシキハ其物ノ全然滅失スルニ至リタル場合ノ損害等ヲ賠償スルコトヲ要ス(草案第二百五十條第二項)而シテ其賠償ヲ請求スルニ付テハ管財人ヨリ届出義務者カ届出命令ノ公告アリタルコトヲ知リタルコト並ニ之ヲ怠リタルニ因リ損害ヲ生スルニ至リタル旨ノ證明ヲ舉タルコトヲ必要トス

現行法ニ於テハ右ノ外破産決定書ニ於テ支拂停止ノ日時ヲ定メシムヘキモノトス(舊商法第九百八十條)是レ支拂停止ノ日時ハ相殺權否認權等ノ行使ノ範圍ニ關係ヲ有シ頗ル重要ナレハナリ(舊商法第九百五十五條草案第八十四條乃至第九百九十二條第九條)尤モ其日時ハ後日更ニ決定ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得是レ其詳細ナル調査ノ後之ヲ定メシメンカ爲メナリ又現行法ニ於テハ破産主任官ヲ定ム是レ斯ル破産機關ノ設定ヲ必要トシタレハナリ(舊商法第九百八十條第一項第二號)

裁判所ハ破産決定ト共ニ右ノ諸事項ヲ定メタルトキハ直ニ(一)破産決定ノ要領(二)破産管産人ノ氏名住所(三)債權届出ノ期間、第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調査ノ期日(四)草案第五百十條ニ定メタル拂渡禁止ノ命令及届出命令ノ要領ヲ公告ス

ルコトヲ要ス(草案第九百五十一條第一項)尙ホ破産決定及草案第四百十九條ニ掲ケタル事項ニ關スル決定ハ知レタル債權者及破産者ノ債務者ニ對シテハ公告ノ外之ヲ送達スルコトヲ要ス(草案第九百五十二條末項)尙ホ破産決定ハ犯罪捜査ノ便ヲ計リ遲滯ナク檢事ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス(草案第九百五十三條第二項)

### 第三節 破産ノ申立棄却、破産ノ取消並ニ之ニ伴フ手續

破産ノ申立カ適法ナラサルトキ例ハ申立カ書面又ハ口頭ニ依リ適當ナル形式ヲ具ヘサルトキ即チ書面ヲ以テスルトキハ申立書ニ相當ノ印紙ノ貼用ナキ場合ノ如キ(草案第九百七十一條)又口頭ヲ以テスルトキハ裁判所書記ノ調書ニ記載サレサルトキノ如キ(草案第九百七十五條)又申立人カ申立ノ權利ヲ有セサルトキノ如キ又申立人カ當事者能力又ハ訴訟能力ヲ有セサルトキノ如キ又申立カ法定代理人ニ依リテ爲サレタル場合ニ於テ申立權利者ノ法定代理人ニアラザリシトキノ如キ又委任代理タリシ場合ニ於テ其委任權限カ十分ニ證明セラレザリシ

トキノ如キ又申立カ適當ナル管轄裁判所へ爲サレザリシトキノ如キ又破産者タルヘキ者カ内國ノ裁判管轄ニ服從セザルトキノ如キ又内國ニ於テ既ニ同一財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキノ如キ又申立人カ適當ナル疏明又ハ書面ノ提出ヲ爲サ、ルトキノ如キ(草案第四百四十三條)又債權者カ申立人タル場合ニ於テ費用ヲ豫納セザルトキノ如キ(草案第四百四十四條)又破産ノ申立アリタル財産ニ對シテハ最早破産ノ宣告ヲ爲スヘキモノニアラザルトキノ如キ(草案第三百三十五條)ハ其申立ヲ不適法トシテ棄却スヘキモノトス

次ニ破産原因ノ存在セザルトキ又ハ破産財團カ破産手續ノ費用タモ償フニ足ラザルトキハ理由ナキモノトシテ破産ノ申立ヲ棄却スヘキモノトス尤モ後ノ場合ニ於テハ債務者ヲ以テ法律上破産者ト看做スヲ以テ檢事ニ其旨ヲ通知スル必要アルモノトス(草案第五百三十三條)然ルニ現行法ニ於テハ此場合ニ尙ホ破産ノ宣告並ニ公告ヲ爲シテ爾後ノ手續ヲ停止スルコトハ既ニ述ヘタリ(舊商法第九百八十二條)破産決定ハ其確定ヲ俟タス直ニ其效力ヲ發セシムト雖モ(草案第一百八十一條舊商法第九百八十一條)之ニ對スル抗告ニ因リ破産カ取消サレ其取消決定カ或ハ再抗告期間ノ徒過ニ因リ

或ハ再抗告棄却ニ因リ或ハ其他ノ原因ニ因リ確定シタルトキハ裁判所ニ於テ直ニ其要領ヲ公告スルコトヲ要シ尙ホ其旨ヲ檢事ニ通知スルコトヲ要ス(草案第五百三十三條)是レ固ヨリ當然ノ事トス而シテ其破産決定ノ確定セサル間ニ管財人カ爲シタル行爲ハ總テ有效ニシテ破産取消後モ債務者ニ對シテ其效力ヲ持續シ管財人ハ破産財團ヨリ所謂財團債權支拂ノ殘務ヲ成シ遂クヘキモノトス之ニ反シテ破産者カ破産財團ノ管理及處分ノ權能ヲ喪ヒタルコトノ如キ其他破産者カ否認權ヲ對抗サレタルコトノ如キハ破産決定ノ取消ニ因リ既往ニ遡リテ總テ其效力ヲ發生セサルニ至ルモノトス

#### 第四節 破産宣告前ノ保全處分

現行法ニ於テハ唯破産宣告後ノ保全處分ヲ規定シ破産宣告前ニ於ケル保全處分ニ付テハ何等ノ規定スル所ナシ然レトモ宣告前ニ於ケル保全處分ノ必要ハ毫モ其宣告後ニ讓ラス仍テ草案ハ第五百十四條ニ於テ宣告前ニ於ケル身體ニ對スル保全處分ヲ規定シ第五百十五條ニ於テ財産ニ對スル保全處分ヲ規定セリ身體ニ對スル保全處分ハ債務者又ハ其法定代理人又ハ前戸主及相續人ノ引致又ハ監守

ヲ命スルモノニシテ引致ハ其財産上ノ状態ニ付キ説明ヲ爲サシメツカ爲メニ強  
制シテ之ヲ出頭セシムルコトヲ目的トシ監守ハ逃走ヲ防キ其説明ヲ與ヘシムル  
爲メト財産藏匿等ヲ豫防スル爲メノ保全手段タリ又財産ニ對スル保全處分トハ  
動産又ハ倉庫等ノ封印ヲ命シ殊ニ其財産ノ一部又ハ全部ノ處分ヲ禁スルカ如キ  
即チ是ナリ

### 第十三章 破産機關

#### 第一節 破産裁判所

破産事件ハ一般ノ強制執行ナルカ故ニ事物ノ管轄トシテハ之ヲ區裁判所ノ管轄  
ニ專屬セシム(草案第四百二條民事訴訟法第五百六十三條)是レ單獨判事ヲシテ之ヲ管掌セシメ  
迅速ニ其手續ヲ終結センコトヲ期スルモノナリ現行法ニ於テハ破産事件ヲ鄭重  
ニスルカ爲ニ合議裁判所タル地方裁判所ノ管轄ニ屬セシメタリ(裁判所構成法第九  
百九十七條)從テ三人ノ判事申一人ヲ以テ破産主任官トシ破産事件ヲ指揮監督セシ  
ム是レ猶ホ普通ノ訴訟事件ニ於ケル受命判事ノ如シ(商法第九百八十三條)破産  
主任官ハ破産宣告ト同時ニ之ヲ選定シ破産決定書ニ之ヲ記載ス而シテ破産主任

官ノ發シタル命令ハ假執行ヲ爲スコトヲ得其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコ  
トヲ得

草案ニ於テハ破産事件ハ單獨判事之ヲ掌ルカ故ニ破産主任官ヲ置クノ必要ナク  
其代リニ破産債權者ノ自衛主義ニ基キ監査委員ナルモノヲ設ケテ從來ノ破産主  
任官ノ行ヒタル職務ノ大半ヲ行ハシム(草案第九十二條)

破産事件ハ土地ノ管轄トシテハ債務者ノ主タル營業所ノ所在地若シ營業所ナキ  
トキハ其普通裁判籍ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトス(草  
案第九十二條)現行法ニ於テハ支拂ヲ停止シタル商人ノ營業所又ハ住所ヲ管轄スル地方裁  
判所ヲ以テ管轄裁判所トス(商法第九十九條)草案ニ於テハ尙ホ相續財産外國人又ハ外  
國法人ニ關スル破産管轄ノ規定ヲ設ケタリ(草案第四百三  
條)

又檢事ハ有罪破産事件搜查ノ權限アルハ勿論破産者ノ監守等ヲ掌リ復權ノ申立  
ニ付キ意見ヲ陳フ(商法第九百八十四條、第一千四條、草案第四百四條、第  
千五條)

#### 第二節 破産管財人

##### 第一 選任

破産法 破産機關 破産裁判所 破産管財人

破産管財人ハ裁判所之ヲ選任ス(草案第百五十六條)外國法ニ於テハ債權者集會ニ於テ之ヲ豫選スルカ如キ制度ヲ採ルモノナキニアラスト雖モ我草案ハ之ヲ採ラス而シテ其選任ハ純然タル自由選擇主義ニシテ裁判所ノ任意ノ選定ニ基ク尤モ法律ノ規定ニ依ル無資格者ヲ除外スルカ如キハ勿論トス(刑事訴訟法第百三十一條)其員數ハ通常一人タルヘキモ裁判所カ必要ト認メタルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得而シテ其數人アルトキハ職務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス又選任ハ之ヲ公告シテ利害關係人ニ之ヲ知ラシムルノミナラス選任ヲ證スヘキ書面ヲ交付シテ管財人其職務ヲ行フニ當リ利害關係人ニ對シ其資格證明ノ用ニ供セシム(草案第百五十七條)現行法ニ於テハ司法大臣カ各地方裁判所ノ意見ヲ聞キ其所轄地方ノ需用ニ應シテ豫メ破産管財人ヲ任命シ置キ地方裁判所ハ之ニ依リテ破産管財人名簿ヲ作ルモノトス而シテ破産ノ宣告毎ニ裁判所ハ其名簿中ヨリ其事件ノ爲メノ管財人ヲ選定スルモノトス(商法施行法第百四十七條、以下商法第九百八十八條)又選任セラレタル管財人ハ正當ノ理由ナクンハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス(草案第百五十八條、商法施行法第百四十八條)

第二 監督

破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ屬ス(草案第百六十條)現行法ニ依レハ破産主任官ノ指揮及監督ヲ受ク(商法第百三十三條)其指揮及監督ハ管財人ノ行爲又ハ不行爲カ能ク法律上ノ義務違反ヲ爲サハルヤ否ヤニ付テ之ヲ爲スモノニシテ能ク其目的ニ適フヤ否ヤハ之ヲ問ハス換言スレハ寧ロ其行爲又ハ不行爲ノ範圍如何ニ關係スヘキモノニシテ其性質ノ良否ニ關係セサルモノトス何トナレハ管財人ハ法律上ヨリ與ヘタル其職權ノ範圍内ニ於テハ自由ナル判斷ヲ用キテ其職務ヲ執行スヘキモノニシテ裁判所ハ決シテ同一ノ行爲ニ對スル上級ノ執行機關ニアラサレハナリ又其監督ハ管財人ノ私行ニ關係ナキハ勿論又其身分ニ關スルモノニアラサルナリ

第三 責任並ニ報酬

破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職務ヲ行フコトヲ要シ若シ其注意ヲ怠リタルトキハ一切ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス(草案第百六十一條)是レ其注意ノ程度ヲ定メタルモノトス元來管財人ノ職務權限ハ直接ニ法律ノ

規定ヨリ來ルカ故ニ直ニ民法受任者ノ責任ノ規定ヲ以テ之ヲ律スヘカラサル  
 ヤ勿論トス(民法第四百六十四條)然レトモ責任ノ程度ハ受任者ニ準スヘキヲ至當トス仍  
 テ右ノ如キ規定ヲ設ケタルモノトス現行法ニ於テモ管財人ハ其行爲ニ付テ代  
 理人ト同一ノ責任ヲ負フモノト規定シタリ其意タルヤ畢竟委任代理者ト同一  
 ノ責任ヲ負フノ意ナリトス又管財人二人以上アルトキハ草案ニ從ヘハ過半數  
 ノ決議ヲ以テ其職務ヲ執行シ現行法ニ依レハ共同シテ其職務ヲ行フモノトス  
 是レ其行爲ニ付キ各自連帶シテ其責任ヲ負フモノトス但現行法ニ依レハ破産  
 主任官ハ數人ノ管財人ニ付キ或行爲ニ付キ各個ニ特別ノ委任ヲ與フルコトア  
 リ斯ル場合ニハ管財人ハ各獨立シテ其行爲ヲ行ヒ其責任モ亦各自分擔スヘキ  
 モノトス(草案第五百五十七條第二項、草案)  
 破産管財人ハ實費ノ支拂及報酬ヲ受ク其額ハ裁判所ニ於テ自由ナル判斷ヲ以  
 テ各事件毎ニ之ヲ定メ(草案第六百九十二條)財團債權トシテ先ツ之ヲ支拂フヘキ  
 モノトス(草案第三十號)現行法ニ於テハ管財人ノ報酬額ノ定メ方竝ニ支拂時期ニ  
 付キ特ニ規定ヲ設ケ該報酬ハ一破産手續ノ全體ニ付キ又ハ收入シタル價額ノ

割合ニ應シテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其步割ヲ以テ之ヲ支拂フヘキモノ  
 ト規定セリ(草案第四十三條)配當ニ依ラスシテ破産ノ終結スル場合ニモ此規定ノ  
 前半ニ基キテ報酬ヲ定ムヘキモノトス

第四 任務終了

破産管財人ノ任務ハ破産手續ノ終結、辭任、解任、死亡、失格(刑法第三十一條第八號)  
 等ニ因リテ終了ス辭任ハ正當ノ事由ノ存スルトキニ非サレハ之ヲ爲スコト  
 ヲ得ス(草案第三百五十八條、草案第三十八條)又現行法ニ依レハ任期满ツルモ擔任破産手  
 續繼續中ハ其終結マテ解任ヲ爲スコトヲ得ス是レ中途ニ於テ管財人カ變更ス  
 ルトキハ手續ノ進行ヲ害スルニ因ル(草案第七條第四十條)解任ハ草案ニ依レハ債  
 權者集會若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ爲スコトヲ得  
 尤モ此場合ニハ破産管財人ヲ審訊シテ其意見ヲ聞クコトヲ要ス(草案第三百六十三條)現行  
 法ニ依レハ職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財人ノ職ヲ解クトキハ裁判所ノ  
 公廷ニ於テ其理由ヲ付シテ之ヲ言渡スヘキモノトス而シテ其形式ハ決定ナリ  
 トス(草案第四十二條)而シテ草案ニ依レハ之ニ對シテ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立



ツルコトヲ得(草案第百九條)

管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ相續人ヨリ債權者集會ニ於テ破産ニ關スル計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス而シテ其報告ヲ爲スニ付テハ利害關係人ノ閱覽ニ供スルカ爲メ計算報告書及監査委員アルトキハ其意見書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁判所書記課ニ提出スルコトヲ要ス而シテ債權者集會ニ於テ破産者破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ計算ニ付キ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス若シ異議ヲ述ヘテ争ヲ生シタルトキハ普通訴訟ニ依リテ決定スヘキモノトス(草案第百六十四條)現行法ハ配當ニ因ル破産終結ノ場合ノミニ付テ計算報告ノ規定ヲ設ケタリ(商法第千四百八十八條)

又管財人ノ任務終了シタル場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ管財人又ハ相續人ハ後任ノ管財人又ハ破産者カ破産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス(草案第百六十五條)是レ委任終了ノ場合ニ於ケル民法第六百五十四條ト全ク同一ノ理由ニ基ク

第五 地位

管財人ノ地位如何ニ付テハ學說區々ニ派ル然レトモ大別スレハ公吏說ト代理說トノ二トナスコトヲ得ヘシ余ハ姑ク後說ノ妥當ナルヲ信セント欲ス蓋官吏若ハ公吏トハ如何ナルモノヲ謂フカノ點ニ付テモ行政法上ノ一問題ナリト雖モ通說ニ從ヘハ服務規律ニ對スル身分上ノ監督ヲ受クルヤ否ヤハ其區別ノ一要點トス然ルニ管財人ニ於テハ裁判所ノ監督ヲ受クト雖モ其監督ハ唯法律上ノ義務違反ヲ爲サハルヤ否ヤニ止リ毫モ其身分上ニ及ハス又管財人ハ裁判所之ヲ選任スト雖モ選任ノ一專カ管財人ヲ以テ直ニ官吏又ハ公吏トナサハルコトハ不在者ノ財産管理人若ハ遺言執行者ヲ裁判所カ選任スルモ之ヲ以テ直ニ公吏トスヘカラサルカ如シ(民法第千二百二十七條)又管財人ヲ以テ官吏若ハ公吏ト看ルコトヲ得ヘクンハ執達吏ノ如ク自ラ財産ノ封印若ハ解封ヲ爲スコトヲ得サルヘカラス又破産財團ノ占有若クハ管理ヲ爲スニ當リ破産者ノ之ニ抵抗スルコトアレハ執達吏ノ如ク自ラ威力ヲ用井テ之カ執行ヲ爲スコトヲ得サル可ラス然ルニ法律ノ規定ハ總テ之ニ反シ管財人ヲシテ毫モ國家的權力ヲ行使セシメス斯ル場合ニハ更ニ執達吏ニ依頼シテ之ヲ執行セサルヘカラス(草案第百七十八條、第百七十九條)

七十九條、西商法第十二條)又現時ノ官公吏ノ任用法ニ依レハ必ス當事者ノ自由意思ニ依リテ之ヲ任命ス然ルニ管財人ニ付テハ正當ノ事由ナクシテ其任命ヲ辭任スルトキハ刑罰ヲ科セラル(西商法施行法第四十四條)刑罰ヲ科シテ官公吏タル身分ヲ取得セシムルニ至テハ他ニ其類例之ナキモノト云ハサルヲ得ス是レ亦管財人カ官公吏タルニアラサル一證トスルニ足ル殊ニ官吏若ハ公吏トシテノ職務ノ執行ハ必スヤ自ラ之ヲ爲サ、ル可ラス然ルニ管財人ノ職務ノ執行ハ其相續人當然之ニ代テ爲ス場合アリ(草案第六十五條)又管財人ハ其代理人ヲ用キテ債權調査會ニ於テ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得(草案第二百二十八條)斯ノ如ク相續人カ當然其先人ニ代テ職務ヲ執行シ又ハ管財人カ代理人ヲ使用シ得ルコトノ如キハ官吏若ハ公吏トシテノ性質ト相容レヌ故ニ少ナクトモ草案ノ規定ニ於テハ公吏說ハ否定スヘキニ似タリ

代理說ノ中ニモ種々アリト雖モ余ハ破産管財人カ破産財團ノ占有、管理及處分ヲ爲スノ點ニ付テハ破産者ヲ代理スルモノニシテ否認權ヲ行使スルノ點ニ付テハ破産債權者ヲ代理スト爲スヲ至當ト信ス蓋破産宣告後モ破産財團ハ依然トシテ破産者ニ屬ス然ルニ管財人ハ破産者ニ代テ之カ占有及管理ヲ爲ス以上之ヲ代理スト云ハスシテ何トカ云ハンヤ而シテ其代理權限ハ管財人ニ選任セラレタルヨリ當然發生シ來ルモノナルカ故ニ所謂法定代理ナリトス而シテ否認權カ破産債權者所屬ノ權利ナルコトハ既ニ論定シタルカ如シ然ルニ管財人ハ法律上ヨリ認メラレタル權限ニ基キ該權利ヲ行使スルモノナルカ故ニ此點ニ於テハ破産債權者ヲ法定代理スト云フノ外ナキモノトス

### 第三節 監査委員

#### 第一 選任並ニ地位

現行法ニ於テハ破産主任官ヲ設ケ破産管財人指揮及監督ヲ掌ラシムルコト、爲シタリト雖モ(西商法第九百八十三條)草案ニ於テハ破産主任官ヲ廢止シ之ニ代フルニ監査委員ヲ以テシ之ニ依リテ管財人ヲ補助シ且ツ監督スル機關ト爲シタリ然レトモ草案ハ破産債權者ノ自衛主義ヲ多ク採用シタル結果トシテ監査委員ハ破産債權者ノ機關ニシテ破産主任官ノ如ク國家機關ニハアラス即チ破産債權者カ破産手續ニ因リ共同ノ辨濟ヲ受ケントスル利益保護ノ機關ナリトス

而シテ其ノ設置ニ付テハ外國法中之ヲ強要スル主義ヲ採ル國ナキニアラスト  
 雖モ我草案ハ事件ノ大小ニ從ヒ監査委員ヲ置クヤ否ヤバ破産債權者ノ意向ニ  
 任セタリ故ニ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ設置スルヤ否ヤノ議決ヲ爲スコ  
 トヲ要ス又一旦設置ノ決議アリタル後反對ノ議決ヲ爲スコトヲ妨ケス(草案第  
 百六十一條)  
六又監査委員ノ選任ハ外國法中第一回ノ債權者集會前ニハ裁判所ニ於テ一時  
 的ノ選任ヲ爲ス主義ヲ採ル國アリト雖モ我草案ハ裁判所ノ臨時選任主義ヲ採  
 ラス第一回ノ債權者集會ノ議決アリタル後始テ之カ選任ヲ爲スモノトシ選任  
 ハ必ス債權者集會ニ於テ之ヲ爲ス(草案第百六十七條)監査委員ニ選任スルニハ男子タル  
 ト女子タルトヲ問ハス又必スシモ破産債權者タルコトヲ要セス然レトモ能力  
 者タルコトヲ要スルハ勿論破産者及破産管財人ハ其選ニ當ルコトヲ得ス何ト  
 ナレハ破産者ハ破産債權者ト利害ノ反スルモノアルヘク又管財人ハ監査委員  
 ノ監督ヲ受クヘキモノニテ自ラ自己ヲ監督スルコト能ハサレハナリ

第二 職責並ニ報酬

監査委員ノ權限ノ範圍ハ直接又ハ間接ニ法律ノ規定ニ依リテ定リ之ヲ増減ス

ルコトヲ得ス故ニ其以外ニ在リテハ監査委員ハ裁判所ニ任意ノ注意ヲ與ヘテ  
 其監督ヲ乞フノ外ナキノミ(草案第百六十條)  
 監査委員ハ唯内部ノ補助又ハ監督機關タルニ止リ外部ニ對スル代表機關ニハ  
 アラス故ニ其權限ハ管財人ノ補助トシテ草案第百九十二條、第二百二條及第二  
 百五十一條等ニ規定シタル事項ニ付キ同意ヲ與ヘ又其監督トシテ各監査委員  
 ハ何時ニテモ管財人ニ對シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀  
 況ヲ調査スルコトヲ得(草案第百六十八條)又監査委員數人アルトキハ其職務ノ執行ハ過  
 半數ヲ以テ之ヲ決ス(草案第百七十七條第二項)  
 監査委員ハ管財人ノ如ク裁判所ノ監督ヲ受クルコトナシ然レトモ其職務ヲ行  
 フニ付テハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テスルコトヲ要シ若シ其注意ヲ怠リタ  
 ルトキハ一切ノ利害關係人即チ唯リ破産債權者ニ對シテノミナラス破産者財  
 團債權者取戻權者及別除權者等ニ對シテモ其責任アルモノトス(草案第百七十  
 一條)  
 監査委員ハ實費ノ支拂及報酬ヲ受クルコトヲ得其額ハ裁判所之ヲ定ム(草案第  
 百七十一條)

條、第百六十二條)

第三 任務終了

監査委員ノ任務ハ管財人ト同シク破産手續ノ終結ト共ニ終了スルハ勿論死亡無能力者ニ因ル失格辭任解任等ニ因リテ終了ス監査委員ノ辭任ニ付テハ管財人ニ對スル草案第百五十八條ノ如キ制限ナシ又解任ハ債權者集會ノ決議ニ因リ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得(草案第百六十九條)

第四節 債權者集會

第一 地位

債權者集會ハ破産債權者ノ共同ノ利益ヲ計ル爲メノ決議機關ニシテ外部ニ對スル執行機關ニアラス而シテ其權利義務ハ法律ノ規定ヲ以テ定リ其以外ニ管財人ニ指圖ヲ與フルモ其效ナシ蓋管財人ハ其機關ニアラサレハナリ又其招集決議ノ方法等モ亦法律ノ規定ニ依リテ定リ且裁判所ノ指揮ノ下ニ之ヲ爲スヲ要ス然ラスンハ其效ナシ

第二 招集

招集ハ裁判所ニ於テ必ス之ヲ爲ス現行法ニ於テハ破産主任官之ヲ爲ス又招集ヲ爲ス場合ハ破産管財人又ハ監査委員若ハ總債權額ノ五分ノ一以上ニ當ル破産債權者ノ申立アリタルトキ若ハ職權ヲ以テスルトキニ限ルモノトス(草案第百七十一條、舊商法第一項)然ルニ其中既ニ法律上招集ヲ爲スコトヲ要スル旨ヲ定メタル場合アリ(草案第百四十九條第二號、第百六十四條、舊商法第九百八十九條第六號、第百四十八條)招集ノ方法ハ債權者集會ノ期日及議決スヘキ事項ヲ定メ豫メ公告シテ之ヲ爲ス又稀ニ送達ヲ要スルモノアリ(草案第百七十二條、舊商法第百三十五條、第一項)是レ其出席者ヲシテ豫メ之ニ對スル準備ヲ爲サシメンカ爲メナリ草案ハ招集ノ場所ニ付テ明言セサルモ是亦公告セシムルヲ可トス而シテ決議ハ必ス其公告シタル事項ニ限リ他ノ事項ニ及フヲ得ス故ニ議決事項ノ變更ナクシテ集會ヲ續行シ新期日ヲ其席ニ於テ直ニ言渡シタルトキハ更ニ公告ノ必要ナキモノトス然ラサル場合ハ公告ノ必要アリ公告ノ方法ハ既ニ説明シタルカ如シ(草案第百二十條)招集ノ命令ニ對シテハ總テノ利害關係人ヨリ又集招ノ申立ヲ却下シタルトキハ申立人ヨリ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得(草案第百九條、舊商法第百八十三條)尤モ

破産債権者カ招集ノ申立ヲ爲シタル場合ニ其額カ總債權額ノ五分ノ一ニ當ルヤ否ヤノ判断ハ裁判所ノ權内ニ屬シ之ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三 指揮

債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス(草案第三百七十三條、舊商法第三百七十五條第一項)故ニ裁判所ニ於テ會議ノ開會、閉會、發言ノ許否、議事日程ノ討議、續行期日ノ言渡、席場ノ取締、議事調書ノ作成等ノ事ヲ司ル而シテ該會議ノ辯論ハ判決裁判所ノ辯論ニアラサルカ故ニ公開スルモノニアラス(民事訴訟法第五百九條)

第四 列席者

破産管財人破産債權者、監査委員ハ會議ニ列席スルコトヲ得裁判所ハ財團債權者、取戻權者等ノ列席ヲ許スコトヲ得又破産者ハ破産ニ關スル説明義務ヲ有スルカ故ニ集會ノ請求アレハ會議ニ出席セサルヘカラス(草案第四百十八條、舊商法第四百三十五條第四項、第五百三十七條第二項)

第五 決議

決議ヲ爲スニハ出席破産債權者ノ過半数ニシテ其債權カ出席破産債權者ノ總

債權ノ半額ニ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス故ニ頭數ト債權額ノ二者ニ於テ出席債權者ノ過半数ナルコトヲ要ス又破産債權者ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得(草案第三百七十四條、舊商法第三百七十六條)優先權ヲ有スル破産債權者モ亦其決議ニ與ルコトヲ得而シテ一人ニシテ許多ノ債權ヲ有スルトキモ之ヲ一員トシテ計算スヘク又同一ノ人カ數多ノ債權者ヲ代表スルトキハ是レ亦數員トシテ計算スヘシ

破産債權者ハ確定債權額ニ付キ議決權ヲ行フコトヲ得破産債權者以外ノ者ハ議決權ヲ行フコトヲ得ス未確定債權又ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ付キ議決權ヲ行ハシムヘキモノナリヤ又如何ナル金額ニ付キ之ヲ行ハシムヘキヤハ異議アル場合ニ於テハ裁判所之ヲ定ム停止條件附債權又ハ將來ノ請求權ヲ有スル破産債權者ニ付テモ亦裁判所之ヲ定ムスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(草案第二百七十五條、舊商法第二百二十八條、第三百三十五條第二項)

第六 決議ノ效力

監査委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル場合ト雖モ債權者集會ノ決議アリタルト

キハ之ヲ以テ其同意ニ代フルコトヲ得又二者ノ意見異ルトキハ債權者集會ノ決議ニ從フ是レ債權者集會ハ一層高等ノ機關ナレハナリ(草案第百七十六條) 裁判所ハ債權者集會ノ決議ニ對シテ最後ノ決定力ヲ有ス即チ其決議カ破産債權者ノ一般ノ利益ニ反スト認メタルトキハ破産管財人又ハ少數債權者ノ一人若ハ數人ノ申立ニ因リ其決議ノ執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得(草案第百七十七條第二項)

### 第十四章 破産財團ノ管理及換價

#### 第一節 破産財團ノ占有及管理

##### 第一 破産財團ノ占有

破産管財人ハ破産宣告後直ニ破産財團ノ占有及管理ニ著手スルコトヲ要ス(草案第百七十八條、舊商法第百七十二條第一項)蓋破産財團ノ管理及處分ノ權ハ破産宣告後管財人ニ專屬スルカ故ニ管財人ハ直ニ之ニ著手シテ其減少ヲ豫防スヘキモノトス而シテ其占有トハ事實上其權力ノ下ニ財産ヲ置クコトヲ意味シ破産ノ宣告ニ因リテ法律上當然管財人ノ占有ニ歸スルモノニアラス又破産財團其モノハ破産宣告後

モ破産者ニ屬スルカ故ニ所有權ト共ニ占有權モ亦破産者ニ屬スルモノトス而シテ管財人ハ破産財團ニ屬スヘキ財産ノミヲ占有管理スヘキハ勿論ニシテ其判斷ハ管財人自ラ之レヲ爲スト雖モ若シ過テ他人ノ財産ヲ占有シタルトキハ第三者ハ取戻權ヲ行使スルコトヲ得ヘク(草案第百七十四條、舊商法第百七十五條)又眞ニ破産財團ニ屬スヘキ財産ヲ故意又ハ過失ニ因リテ見逃シタルトキハ管財人自ラ責任ヲ負フハ勿論利害關係人ハ裁判所ニ請求シテ管財人ニ注意ヲ與フルコトヲ得ヘシ(草案第百六十一條、第百六十三條)

破産者カ占有及管理ニ反對シタルトキハ管財人自ラ威力ヲ用キテ之ヲ執行スルコトヲ得ス是レ亦破産宣告ナル債務名義ニ基キ執達吏ニ依頼シテ之ヲ執行スルノ外ナシ(民事訴訟法第百五十五條第一號)若シ第三者カ其所持セル破産者ノ財産ヲ任意ニ引渡サ、ルトキハ管財人ハ破産者所屬ノ權利ニ基キ引渡ノ訴ヲ起サ、ルヘカラス又別除權者ニ對シテハ其權利ノ目的ノ呈示ヲ求ムルコトヲ得(草案第百九十七條、舊商法第百九十八條)又管財人ハ破産財團ノ管理行爲トシテ債權ノ取立ヲ爲シ又破産者ノ權利ヲ第三者ニ對シテ主張シ且保存行爲ヲ行ヒ得ルハ勿論トス(舊商法第百九十九條)

第一項

第二 財産ノ封印並ニ其除去

草案ニ在テハ破産財團ニ屬スル財産ノ封印ヲ爲スト否トハ管財人ノ認定權内ニ屬スルモノトシ管財人ノ必要アリト認メタルトキニ於テ之ヲ爲サシムルモノトス故ニ腐敗又ハ減價ノ虞アル物又ハ營業繼續等ニ必要ナル物件ハ管財人固ヨリ之ニ封印ヲ爲サシメス(草案第百七十九條第一項、第百八十七條)而シテ封印ハ倉庫等ニ對シテモ之ヲ爲ス

現行法ニ於テハ裁判所ハ破産宣告ト同時ニ破産者ノ動産ノ封印ヲ命ス又會社ニ在リテハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ動産ニ對シテ封印ヲ命ス是レ其財産ノ減少ヲ豫防センカ爲メナリ尤モ破産財團ニ屬スヘカラサル財産ハ封印ノ必要ナキハ勿論又腐敗減價等ノ爲メ即時ノ換價ヲ必要トスル物件ハ封印ノ爲メ繼續利用ヲ妨ケラル、物ニ付キテハ封印ヲ爲サ、ルコトヲ得然レトモ是等ノ物ニ付テハ管財人直ニ之ヲ財産目錄ニ載セ且占有スルコトヲ要ス(舊商法第百二十五條、第百二十五條)又高價品ノ保管方法ニ付テハ特別規定ヲ設ケ即時之ヲ管財人ニ交付

シ又ハ一時之ヲ裁判所ニ引取ルコトヲ得ルモノト爲セリ(舊商法第百二十五條、草案ニ於テハ高價品ノ保管方法ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ定ムルモノトシ第一回ノ債權者集會前ニ於テハ裁判所之ヲ定ムルモノト爲セリ(草案第百八十九條))封印ノ執行者ハ執達吏又ハ公證人又ハ裁判所書記ナリトス是等ノ者ハ何レモ其調書ヲ作成スヘキモノトス(草案第百七十九條、執達吏規則第三條)而シテ其調書ハ公衆ノ閱覽ニ

供ス(草案第百八十四條末段、舊商法第百八十四條第三項)

封印ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ除去ス其除去ニ付テハ封印ニ付テ説明シタル點ヲ皆準用スルコトヲ得ヘシ(草案第百八十五條第一項、舊商法第百八十五條第一項)

第三 帳簿ノ閉鎖

破産者ノ財産ニ關スル帳簿ニ付キ後日ノ記入變更等ヲ豫防スルカ爲メニ破産宣告後直ニ裁判所書記之ヲ閉鎖シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス而シテ此場合ニハ之カ調書ヲ作り之ニ其帳簿ノ現狀ヲ記載スルコトヲ要ス(草案第百八十九條)現行法ニ於テハ商人ノ提出シタル商業帳簿ヲ管財人ニ交付シ且其帳簿ノ現狀ハ破産主任官之ヲ認證スルモノトセリ(舊商法第百八十九條第三項)

第四 財産目録ノ作成

管財人ハ破産宣告後遅滞ナク裁判所書記公證人又ハ執達吏ノ立會ヲ以テ破産財團ニ屬スル財産ノ總目録ヲ作ルコトヲ要ス苟モ破産財團ニ屬スルモノタル以上ハ他人ノ占有ニ屬スル物モ別除權ノ目的タル物モ亦之ニ屬スルヤ否ヤ疑問中ニ屬スル物モ皆之ニ記載スルコトヲ要ス然レトモ他人所屬ノ財産ハ勿論又訴訟中ニ屬シ管財人之ヲ破産財團ヨリ放任シタル物ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス現行法ニ於テハ之ニ反シテ財團ニ組入ルヘカラサル物モ亦之ヲ記載ス(草案第百八十二條第一項、舊商法第千十四條第二項)

財産目録ニハ財産ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス若シ必要アルトキハ鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシムルコトヲ得(草案第百八十二條第三項、舊商法第千十四條第二項)

財産目録ノ調製ニハ已ムコトヲ得サル事由アルトキノ外ハ破産者ノ立會アルコトヲ要ス是レ其調製ニ便宜ニシテ且正當ナル目録ヲ調製スルコトヲ得レハナリ(草案第百八十項)現行法ニ於テハ之ニ反シテ必要アルトキニ於テノミ破産者ヲ立會ハシムルモノトシ又檢事ハ其見込ニ因リ職權ヲ以テ其作成ニ立會フコトヲ得トナセリ是レ其犯罪搜查ニ便ナルカ爲メナリ(舊商法第千十四條)

財産目録ハ利害關係人ノ閱覽ニ供ス(草案第百八十四條、舊商法第百十四條第三項)

第五 貸借對照表ノ作成

管財人ハ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス(草案第百八十三條)是レ財産目録ト相並テ財産ノ状態ヲ直ニ知ルノ便ニ供センカ爲メニシテ之ニ依リテ破産債權者ニ何程ノ配當ヲ爲シ得ヘキカヲ知ルコトヲ得殊ニ強制和議ノ決議ニ際シテ必要アリ而シテ其記載スヘキ價格ハ其作成ノ時ノ價格ニ依ル

現行法ニ於テハ管財人ヲシテ破産主任官ノ定メタル三十日以内ノ期間ニ破産者ヨリ差出シタル届書及貸借對照表ヲ調査シ報告書ヲ提出セシム若シ破産者ヨリ貸借對照表ヲ差出サ、リシトキハ管財人自ラ之ヲ作成ス其報告書及貸借對照表ハ之ヲ檢事ニ送致ス尙ホ其認證アル謄本ハ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘテ公衆ノ閱覽ニ供ス(舊商法第千十六條)

第六 破産宣告後ノ財産ノ取得

破産宣告後相續其他ノ原因ニ因リ破産者カ新ニ取得シタル財産モ亦破産財團



ニ屬スルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ此場合ニハ其財産ノ負擔ニ屬スル債務ヲ履行セシ後殘餘財産ヲ破産財團ニ組入ル、コトヲ要ス而シテ之ニ對シテハ草案第七十八條乃至第八十一條ノ規定ニ從ヒ占有及管理ヲ爲シ必要アルトキハ封印ヲモ爲サシムルモノトス又破産者若ハ管財人カ相續又ハ包括遺贈ノ限定承認ヲ爲シタルトキハ管財人ハ民法第一千二十九條乃至第一千三十五條ノ規定ニ依リ相續財産ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス是等ノ場合ニハ殘餘財産ニ付キ財産目錄及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ要ス(草案第二百一十一條第四十五條乃至第四百一十八條)

第七 信書ノ開封

破産財團ノ發見並ニ狀態ヲ知ルニ便ナラシメンカ爲メニ法律ハ信書ノ秘密保護ニ對スル一大例外ヲ認メ裁判所ハ職權ヲ以テ破産者ニ宛テタル郵便物又ハ電報ヲ管財人ニ直接ニ交付スヘキ旨ヲ郵便官署ニ囑託スルコトヲ要シ管財人ハ其受取リタル郵便物又ハ電報ノ開封ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲セリ(草案第五百八十五條、第五百八十六條、第五百八十七條、第五百八十八條、第五百八十九條、第五百九十條、第五百九十一條、第五百九十二條、第五百九十三條、第五百九十四條、第五百九十五條、第五百九十六條、第五百九十七條、第五百九十八條、第五百九十九條、第六百條)裁判所ハ其囑託ヲ爲シ又ハ其囑託ヲ擴張スルニ付テ

ハ毫モ破産者ノ隱見ヲ聞クコトヲ要セサルナリ又其郵便物ノ中ニハ書狀、端書、印刷物、小包郵便等ヲ包含ス

右開封ノ事タルヤ狼ニ破産者ノ秘密ヲ發キテ彼ヲ苦痛ニ陥ラシメンコトヲ目的トスルニアラス故ニ破産者ハ其開封ニ立會ヒ又ハ其閱覽ヲ求メ且其破産財團ニ關セサルモノニ付テハ其交付ヲ請求シ得ルモノトナセリ若シ管財人ニ於テ之ヲ承諾セサルトキハ普通訴訟ニ依リテ訴追スルコトヲ得

裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ郵便官署ニ對スル右ノ囑託ヲ取消シ又ハ制限スルコトヲ得又破産ノ取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シタルトキ又ハ破産終結ノ決定アリタルトキハ裁判所ハ右ノ囑託ヲ取消スコトヲ要スルハ勿論トス(草案第八十六條)

第二節 破産財團ノ換價

第一 換價ノ時期

一般ノ債權調査終了前又ハ強制和議ノ提供アリタル場合ニ於テ其落著ニ至ルマテハ財團ノ換價ニ著手スルコトヲ得ス(草案第八十八條)蓋強制和議ハ一般ノ債權調

查ノ終了前ニハ之ヲ決議スルコトヲ得ス(草案第二百五條)然ルニ換價ヲ早計ニ爲シ  
 遂クルトキハ強制和議ニ因リテ破産ノ終結スル利益ヲ沒了セシムルニ至ル故  
 ニ換價ノ時期ニ付キテ斯ル制限ヲ置クモノトス此制限以外ニ在リテハ管財人  
 ノ見込ニ依リ適當ト思フ時期ニ於テ之ヲ爲ス現行法第一千二百條第一項ニハ即  
 時ニ財團ノ換價ニ著手スヘキカ如ク規定スト雖モ是レ唯其發端ヲ示スニ止リ  
 爾後管財人ノ見込ニ從ヒ適當ト思フ時期ニ於テ換價スレハ足レリトス但損敗  
 又ハ減價ノ虞アルモノ及保管ニ不便ナルモノニ付テハ草案ニ於テモ右ノ制限  
 ニ拘ラス監査委員ノ同意又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ賣却ヲ爲スコトヲ得トナセ  
 リ是レ已ムヲ得サルノ必要ニ出ツルモノナリ(草案第二百八十條)

第二 換價ノ方法

換價トハ財團所屬ノ財産ニ依リ金錢又ハ金錢的價值ヲ得ルコトヲ謂フ金錢的  
 價值ヲ得トハ例ハ破産債權者又ハ財團債權者ニ對シテ金錢債務ノ代物辨濟ト  
 シテ破産財團ニ屬スル財産ヲ與フルカ如キ是ナリ換價ノ方法ハ草案ニ依レハ  
 原則トシテ管財人ノ適當ト認メタル所ニ依ルモ例外トシテ

- 一 監査委員ノ同意若ハ債權者集會ノ決議ヲ得テ始テ爲シ得ト定メタルモノ  
 アリ之ニ關シテハ後ニ説明スヘシ(草案第二百九條以下)
  - 二 不動産又ハ船舶ヲ目的トスル權利ノ換價ハ草案第九十二條ノ規定ニ依  
 リテ任意賣却ヲ爲ス外民事訴訟法又ハ競賣法ノ規定ニ依リテノミ之ヲ爲ス  
 コトヲ得(草案第九十八條)
  - 三 別除權ノ目的タル財産ノ換價モ亦民事訴訟法又ハ競賣法ノ規定ニ依リテ  
 ノミ之ヲ爲スコトヲ得是レ別除權者ノ利益ヲ保護スル爲メニ最モ公平ナル  
 方法ナルヲ以テナリ而シテ換價後ハ別除權ハ其代金ノ上ニ存スルモノトス  
 又管財人ハ別除權者カ受クヘキ金額ハ之ヲ供託スルコトヲ要ス(草案第九十九條)  
 別除權者カ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ別除權ノ目的ヲ處分スル權利  
 ヲ有スルトキハ管財人ハ裁判所ニ申立テ、別除權者カ其處分ヲ爲スヘキ期  
 間ヲ定メシメ別除權者カ其期間内ニ處分ヲ爲サ、リシトキハ管財人ハ民事  
 訴訟法又ハ競賣法ノ規定ニ依リテ換價ヲ爲ス(草案第二百條)
- 以上述フル所ハ草案ニ規定シタル換價ノ方法ナリ現行法ニ於テハ動産タルト

不動産タルトヲ問ハス換價ハ原則トシテ民事訴訟法ニ依ル競賣ノ方法ニ從フモノトス唯例外トシテ動産ニ付テハ破産主任官ノ認可ヲ得テ相對賣却ヲ爲スコトヲ得是レ却テ費用ヲ節約スルコトヲ得レハナリ(西商法第千十八條)

### 第三節 他ノ破産機關ノ關與

#### 第一 扶助料ノ給與

破産者及其家族ニ對スル扶助料ニ付テハ其地位人數等ニ鑑ミテ結局ノ決定ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ決議ス是レ其多寡ハ破産債權者ノ利害ニ關スルコト大ナルヲ以テナリ然ルニ第一回ノ債權者集會前ニ在リテモ扶助料ノ必要アルコト勿論ナルヲ以テ此場合ニハ管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ臨時之ヲ給與スルコトヲ得(草案第百八十七條)而シテ扶助料ハ財團債權タルコト既ニ述ヘタルカ如シ(草案第百八十七條)現行法ニ於テハ破産主任官ニ於テ破産者及家族ノ爲メニ給養ノ扶助料ヲ與フ(西商法第千七條)

#### 第二 營業ノ繼續

是レ亦其結局ノ決定ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ爲ス其以前ニ在リテハ

管財人ニ於テ繼續ヲ必要ナリト認ムルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スニトヲ得(草案第百八十七條)現行法ニ於テハ貸方ノ借方ニ超ユルコト判然ナルトキ又ハ協諾契約ノ豫期セラル、間ニ於テノミ破産主任官ノ申立ニ因リ裁判所ハ管財人ノ意見ヲ聞キタル後管財人ヲシテ營業ノ續行ヲ爲サシムル決定ヲ爲スコトヲ得故ニ營業ノ續行ヲ爲ス場合尠ナシト云フヘシ而シテ管財人營業續行ノ場合ニ於テ財團ニ屬スル物ヲ通常ノ營業外ニテ賣却セントスルニハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ且豫メ破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス(西商法第千十七條)

#### 第三 高價品ノ保管方法並ニ其返還

貨幣、有價證券、金銀細工物、美術品等ノ高價品ノ保管方法モ亦結局ノ決定ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ決議ス唯其集會前ニ於ケル一時的ノ保管方法ハ破産裁判所ニ於テ之ヲ定ム(草案第百八十九條)又管財人ハ寄託シタル高價品ノ返還ヲ求ムルニ監査委員ノ一人ノ同意、若シ監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス是レ管財人ノ濫費支出ヲ豫防センカ爲メナリ尤モ債權者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ此限ニ

アラス是レ債權者集會ノ自衛上其必要ナシト認メタルニ依ルモノナリ(草案第百二條)現行法ニ於テハ債權ノ取立其他財團ノ換價ニ依リテ收入シタル金錢ノ保管ニ付テハ破産主任官ノ定ムヘキ常用支出額ノ外遲滞ナク之ヲ供託所ニ寄託セシムルモノトシ爾後破産主任官ノ支拂命令ニ依ルニアラサレハ支出スルコトヲ得サルモノト爲セリ又高價品ニ付テハ即時之ヲ管財人ニ交付シ又ハ一時裁判所ニ引取ルコトヲ得ト爲セリ(舊商法千二百五條第(四)項第千二百五條第)

第四 草案第百九十二條若ハ現行法第千九十九條第二項ニ列舉シタル行爲

茲ニ列舉シタル行爲ハ何レモ其重要ナルノ故ヲ以テ又ハ其通常爲スヘカラサル行爲タル等ノ故ヲ以テ他ノ破産機關ノ關與ヲ必要トシタルモノナリ現行法ニ於テハ破産主任官ヲ置ケルヲ以テ其認可ヲ必要トナシタルモ草案ニ於テハ之ナキカ故ニ第一回ノ債權者集會前ニ於テ是等ノ行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ管財人ハ破産裁判所ノ許可ヲ受クヘキモノトシ第一回ノ債權者集會ニ於テ監査委員ヲ設置スルコトヲ議決シタルトキハ爾後ノ監査委員ノ同意ヲ受クヘキモノトス(草案第百九十二條第(一)項第(一)項)其同意ハ概括的ニ之ヲ與フルヲ妨ケス若シ監査

委員ヲ置カサル場合ニ於テハ管財人ハ草案第百九十二條第一項第一號乃至第六號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス是レ其特ニ重要ナルヲ以テナリ(草案第百九十三條)其以外ノ行爲即チ第七號乃至第十三號ニ掲ケタル行爲ニ付テハ管財人ハ債權者集會ノ決議ヲ受ケ監査委員ノ同意ニ代フルモ固ヨリ之ヲ妨ケスト雖モ(草案第百七十一條第(一)項)管財人ハ獨斷ヲ以テ決行スルモ亦之ヲ妨ケサルナリ

管財人ハ草案第百九十二條第一項列舉ノ行爲ニ付テハ右ノ手續ヲ盡ス前已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外豫メ破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス是レ破産者ニ是等ノ行爲ニ對スル意見ヲ發表セシムル機會ヲ與ヘ遂ニ管財人ヲシテ適當ナル處置ヲ取ラシムルニ至ル爲メト管財人ノ一旦爲シタル行爲ハ破産手續終結後ニ於テモ其效力ヲ存續シ破産者ノ利害ニ關スルコト大ナルモノアルトニ由ルモノナリ現行法モ破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要スル點ハ同一ナリトス(舊商法千二百五條第(一)項)又是等ノ行爲ニ付キ縱令監査委員ノ同意アリタルトキト雖モ破産者ノ申立ニ因リ裁判所ハ其行爲ノ執行ノ中止ヲ命シ之ニ關スル決議ヲ爲

サシムル爲メ債權者集會ヲ招集スルコトヲ得(草案第百九十五條)債權者集會ニ於テモ管財人ノ其行爲決行ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ草案第百七十七條ニ依リ其決議ノ執行ノ停止ヲ命スルノ外ナキノミ(舊商法第百九十二條第二項)又破産者ノ申立却下ノ場合ニハ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルハ勿論トス(草案第百九條)

以上説明シタル裁判所ノ許可監査委員ノ同意債權者集會ノ決議破産者ノ意見ヲ聽クコトノ如キハ管財人ト是等破産機關トノ内部關係ニ止リ外部ニ對スル關係ニアラス故ニ管財人カ是等ノ規定ニ違反シテ獨斷決行シタルトキト雖モ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(草案第百六十條)蓋破産管財人ハ破産財團ニ關スル管理及處分ノ權ヲ有シ苟モ此法定ノ制限内ノ行爲タル以上ハ管財人ノ獨斷ノ行爲ヲ以テ善意ノ第三者ニ對シテハ有效ト爲サルヘカラス若シ之ニ反シ有效トセサルトキハ管財人ト取引スル第三者ハ其行爲ノ種類如何ニ依リ一々他ノ破産機關ノ同意アリタルヤ否ヤ等ヲ取調ヘサルヘカラス是レ到底不可能ノ事ニ屬ス故ニ管財人トノ間ニ爲シタル取引ノ安全ヲ害セサランカ爲メニ其行爲ハ之ヲ有效ト看做サルヘカラス然レトモ惡意ノ第三者ニ至リテハ之ヲ

保護スヘキ理由ナキニ依リ唯リ善意ノ第三者ノミヲ保護スルニ止ルモノトス(草案第百九十六條)尤モ現行法ニハ斯ル明文ナキカ故ニ固ヨリ斯ノ如ク論斷スルコトヲ得ス寧ロ其行爲ヲ無効トナスヘキモノトス又管財人自身ハ斯ル法則違反ノ行爲ニ對シテ民事上竝ニ監督上ノ責任ヲ負フハ勿論トス(草案第百六十條第百六十四條第百六十五條)

今左ニ其各號ノ行爲ノ概要ヲ説明スヘシ

- 一 遺産相續又ハ遺贈ノ拋棄 是レ通常存在スヘキ行爲ニアラサルノミナラス之ニ因リテ破産財團ノ減少ヲ來スニ因ル(草案第百九十二條第一項第一號)草案カ家督相續ヲ除去シタルハ是レ其承認ハ破産者自身ノ權限ニ屬シ限定承認ヲ爲スヘキモノト爲シタルニ由ル(草案第百四十五條)
- 二 不動産又ハ船舶ノ任意賣却 任意賣却トハ競賣ノ反對ヲ意味ス競賣ハ公平ナル換價方法ナレトモ任意賣却ハ或ハ不正ノ所爲ニ行ハレ易キヲ以テナリ故ニ不動産又ハ船舶ハ通常競賣ノ方法ニ依ル(草案第百九十二條第一項)現行法ニハ斯ル制限ナク唯不動産ヲ買入ル、コトニ付キ破産主任官ノ認可ヲ受

タヘキモノトセリ是レ不動産ノ買入ノ如キハ極テ異常ノ事ニシテ財團ノ通常ノ管理行爲ト見ルヘキモノニアラサレハナリ(舊商法第九十九條第二項第七號)

三 鑛業權、漁業權、特許、意匠專用權又ハ著作權ノ讓渡

四 營業ノ讓渡

五 商品ノ一括賣却

是レ皆重要ナル行爲タルニ由ル(草案第九十二條第一項第五號)

六 借財 是レ亦通常ノ管理行爲ト異リ利害ノ關スルモノ大ナルニ由ル(草案第九十二條第一項第六號舊商法第九十九條第二項第六號)

七 百圓以上ノ價額ヲ目的トスル債權ノ讓渡 債權ノ讓渡ハ其取立、相殺等ト異リ通常ノ換價方法ニアラサルニ由ル現行法ニハ債權ノ額ニ制限ナシ又轉付ト云ヘルモ讓渡ノ意義ニ外ナラス(草案第九十二條第一項第七號舊商法第九十九條第二項第四號)

八 雙務契約ノ履行請求 是レ財團債權ヲ生シ破産財團ヲ減少セシムルニ由ル(草案第九十二條第一項第八號)

九 訴ノ提起 是レ訴訟費用負擔ノ結果ヲ生シ重要ナルニ由ル而シテ訴ノ提

起タル以上ハ本訴、反訴及督促手續ヲモ包含ス(草案第九十二條第一項第九號)

十 訴訟受繼ノ拒絶 是レ亦財團ノ減少ヲ來スニ由ル(草案第六十八條第六十

十項第

十一 和解及仲裁契約 是レ亦訴訟行爲ト同視スヘキニ由ル(草案第一百九十二

條舊商法第九十九條第二項第二號)

十二 權利ノ拋棄及義務ノ承認 是レ亦財團ノ減少ヲ來スニ由ル義務ノ承認

トハ例ハ別除權財團債權等ヲ認ムルカ如シ(草案第九十二條第一項第十二

九號第

十三 別除權ノ目的ノ受戻 是レ一方ニ於テハ別除權ノ成立ヲ承認シ他方ニ

於テハ受戻シタル目的物ヲ以テ時トシテ完済スルコト能ハサル義務ヲ承認

シテ之ヲ辨済スルニ至ルモノナレハナリ(草案第九十二條第二項第十三號

第五 管財人ノ報告

第一回ノ債權者集會ニ於テ管財人ハ支拂不能ノ原因、破産財團ニ關シテ爲シタ

ル處分例ハ營業ノ繼續ノ如キ其他破産財團ノ狀況ニ付キ報告ヲ爲スコトヲ要ス(草案第百九十九條)是レ債權者集會ヲシテ監査委員ノ設置、扶助料ノ給與、營業ノ繼續、高價品ノ保管方法等ヲ決議セシメンカ爲メナリ又債權者集會ハ爾後管財人ヲシテ該集會又ハ監査委員ニ破産財團ノ狀況ヲ報告セシムル方法並ニ時期等ヲ定メテ之カ報告ヲ爲サシム(草案第百一十條)是レ債權者ノ利益保護上必要ナレハナリ

#### 第四節 特別破産ノ財團ノ換價

##### 第一 法人ノ破産ノ場合

各種ノ商會社其他ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其現存財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ其社員又ハ株主ノ出資義務ハ破産財團ニ屬スヘキ財産ナルコト明ナリ仍テ管財人ハ其出資ノ取立ヲ爲スコトヲ得サルヘカラス而シテ其取立ハ破産手續ヲ速ニ終了セシムル爲メニ辨濟期ノ如何ニ拘ラス之ヲ爲スコトヲ得セシメサルヘカラス是レ草案第二百三條ノ規定アル所以ナリ

現行商法ニハ明文ヲ以テ破産ノ場合ヲ除外セルカ故ニ商法第九十二條ヲ會社

ノ破産ノ場合ニ準用スルコトヲ得スシテ定款ニ從テ出資ノ取立ヲ爲サ、ルヘカラサルカ如シ(商法第八十六條第九十條)立法論トシテハ不都合ト云フヘシ然ラト雖モ破産ノ場合ヲ除ク外トハ破産法ニ特別規定ヲ存スヘキカ故ニ斯ク明言シタルニ止リ必スシモ商法第九十二條ノ如キ規定ノ準用ヲ積極的ニ禁止シタリトハ云フヘカラス故ニ過渡時代トシテハ商法第九十二條ノ如キ規定ノ精神ヲ準用スルハ已ムヲ得サルコト、云フヘシ然ラズンハ破産手續ハ遂行スルコト能ハサルニ至レハナリ

##### 第二 無限責任又ハ保證責任ノ産業組合並ニ相互保險會社ノ破産ノ場合

是等ノ破産ノ場合ニ於テ其組合又ハ會社ノ現存財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ其組合員又ハ社員ノ責任ノ限度内ニ於ケル拂込義務ハ破産財團ニ屬スルコト勿論ナリ蓋組合員又ハ社員ハ組合又ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ノ義務ヲ負フコトヲ唯組合又ハ會社ニ對シテノミ責任ヲ負フ仍テ破産管財人ハ其組合員又ハ社員ヲシテ責任ノ限度内ニ於テ拂込ヲ爲サシム草案第二百四條乃至第二百十六條ハ其手續ニ付キテ規定シタルモノナリ(草案第百二十七條)

### 第三 匿名組合契約ニ於ケル營業者ノ破産ノ場合

匿名組合ハ營業者ノ破産ニ因リテ終了スルモ匿名組合員カ未タ全部ノ出資ヲ爲サ、リシトキハ組合終了當時ニ於ケル組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ハ營業者ノ破産財團ニ屬スルモノトス仍テ管財人ハ其額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得(草案第二百二十八條)

## 第十五章 破産債權ノ届出及調査

### 第一節 破産債權ノ届出

#### 第一 届出期間

裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ債權届出ノ期間ヲ定ム其期間ハ草案ニ依レハ破産宣告ノ時ヨリ起算シテ二週間以上四ヶ月以下タルコトヲ要シ現行法ニ依レハ短クトモ三ヶ月長クトモ六ヶ月以下タルコトヲ要ス此範圍内ニ於テ裁判所ハ事件ノ大小ニ依リ適當ト認ムル所ニ從ヒ之ヲ定ム其定メ方ハ何月何日マテトシテ最終ノ日ヲ示スモ可ナリ又何週間又ハ何ヶ月間トスルモ可ナリ若シ此

法定範圍ヲ超エタル場合又ハ不當ニ長短アルトキハ當事者ハ即時抗告ニ依リテ不服ヲ申ツ立ルコトヲ得(草案第四百九十九條第一項第一號第九百九)其期間ノ起算點ハ草案ニハ破産宣告ノ時ヨリト云フニ由リテ之ヲ觀レハ其時ヨリ起算スト解スルヲ至當トス現行法ハ破産決定ノ公告ニ因リ……届出ツヘキ旨ノ催告ヲ受ケタルモノトスト云フニ由リテ之ヲ觀レハ其公告ノ時ヨリ起算スルヲ至當トス(商法第一千二百一十三條第一項)又此届出期間ハ公告シテ利害關係人ニ知ラシムルノミナラス知レタル債權者ニハ之ヲ送達シテ特ニ之ヲ保護ス然ルニ現行法ニハ其書面カ到達セラレサルカ爲メニ損害ヲ被ルコトアルモ其賠償ヲ請求スルコトヲ得スト明言セリ是レ固ヨリ當然ノ事トス(草案第二百二十五條第四項)現行法ニ於テハ外國所在ノ債權者ノ爲メニ債權ノ届出竝ニ調査ノ爲メ特別ノ期間ヲ定ムルノ制度ヲ採レリ(商法第九百九十九條末段)草案ハ此主義ヲ採ラス債權届出期間ハ不變期間ニアラス故ニ期間ヲ懈怠スルモ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス(民訴第四百七十四條)又此期間ハ除斥期間ニハアラス故ニ此期間經過後ノ届出モ亦有效ナリ唯期間後ニ届出ラタル者ハ自ラ其不利益ヲ被ルノミ後ニ説明



スヘシ(草案第百二十九條以下)

二四〇

## 第二 届出ノ方法

届出ハ現行法ニ於テハ破産主任官ニ向テ之ヲ爲ス草案ニ於テハ裁判所ニ向テ之ヲ爲ス管財人ニ向テ之ヲ爲スモ無効ナリ届出ノ目的物ハ債權ノ額及原因若シ優先權アルトキハ其權利ナリトス而シテ其成立ヲ證スル爲メニ證據書類又ハ謄本ヲ提出スルコトヲ要ス債權ノ額ハ日本貨幣ニ評價スルコトヲ要ス原因トハ例ハ貸金又ハ賣掛代金ト明示スルカ如シ優先權ニ付テモ例ハ一般ノ先取特權ナルヤ否ヤ等特定ノ優先權タルコトヲ明示スルコトヲ要ス此届出ノ目的物中金額及原因ノ二者ハ必要條件ニシテ之ヲ缺カハ全然届出ノ効ナシ優先權ニ至リテハ之ヲ缺クモ通常債權トシテ取扱ハルノノ不利益ヲ被ルノニ後日優先權ノミヲ届出ツルトキハ特別ニ調査セラル又證據書類又ハ謄本ノ提出ヲ缺クモ是レ債權存立ノ證據問題ニ關係アルノミニシテ届出ヲ全然無効トスルニ至ラス(草案第百二十四條第百二十二條第百二十一條)届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス書面ヲ以テスル場合ハ現行法ニ依レハ二通ヲ要ス是レ一通ハ管財人ノ用ニ供セ

シメンカ爲メナリ草案ハ一通ニテ足り之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置キ裁判所ト管財人ノ兩用ニ供ス口頭ヲ以テスル場合ハ裁判所書記之カ調査ヲ作ル現行法ニ於テハ書記ハ謄本ヲ作り之ヲ管財人ニ交付ス(草案第百十一條第百二十三條第百二十五條第百二十四條)

届出ニハ代理人ヲ使用スルコトヲ得委任ノ有無ハ職權ニ依リ裁判所之ヲ調査スヘシ草案ニテハ破産ハ區裁判所ノ事件ニ屬セシメタルカ故ニ辯護士ニ依頼スルコトヲ要セサレトモ現行法ハ地方裁判所ノ事件トナセルカ故ニ辯護士ヲ要ス殊ニ現行法ニ於テハ他所ニ住スル債權者ハ裁判所所在地ニ代人ヲ置クヘキモノトシ其届書ヲ提出スヘキモノトシタリ(民訴第六十三條第百三十三條第百三十四條第百三十五條)

## 第三 届出ノ效力

届出カ不適法ナリシトキハ之ヲ却下ス債權者ハ之ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(草案第百九十八條第百九十九條)届出カ適法ナリシトキハ破産債權者トシテ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行ヒ又其調査ヲ受ケテ債權ヲ確定セシメ爾後破産手續上ヨリ生スル利益ニ與ルコトヲ得又時効ヲ中斷ス(民法第百五十二條第百五十三條)其中斷ノ効

力ハ破産手續ノ終結若ハ廢止(現行法ニマテ繼續ス(五十七條)尤モ獨立シテ箇々ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルコトノ如キ又ハ強制和議ニ服従スルコトノ如キハ債權ノ届出ヲ爲シタルト否トニ關係ナキモノトス(草案第八條第三百八十七條)

届出期間後ニ於テ届出テタル事項ニ付キテ變更ヲ爲シタルトキハ恰モ新ナル届出アリタルモノ、如ク之ヲ取扱フ例ハ債權ノ額ヲ増加シ他ノ成立原因又ハ新ナル優先權ヲ主張スルトキノ如シ(草案第三十條)

又届出ハ破産手續ノ終結スルマテ債權者ハ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得其取下ニハ破産者ノ承諾ヲ要セス取下クルトキハ時効中斷ノ效力ヲ生セス(第一百二十五條)取下後再ヒ届出ツルコトヲ妨ケス

#### 第四 別除權者ノ届出

別除權者ハ其別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル殘額ニ付キテノミ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ルニ止ルカ故ニ(草案第九十三條十九)其届出ヲ爲スニ當リテハ普通破産債權者ト同シク債權成立ノ原因ヲ届出

ツルハ勿論別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ豫定額ヲ届出ツルコトヲ要ス若シ其債權ノ全額ヲ届出ツルトキハ其別除權ヲ拋棄シタルモノト看做サル(草案第二十三條)

#### 第五 債權表ノ作成

債權ノ届出アルトキハ裁判所書記ハ其届出ノ日時ヲ届書ニ附記スルコトヲ要ス是レ届出期間内ニ届出テタルコトヲ知ル爲メト時効ノ中斷サレタル時期ヲ知ル爲メトニ必要ナルヲ以テナリ而シテ書記ハ債權表ヲ作り草案第二百二十四條列舉ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス書記ハ其記載ニ付キ債權ノ取捨ヲ爲スコトヲ得ス蓋彼ハ毫モ債權調査ノ權限ヲ有セザレハナリ又届出ノ適法ナルヤ否ヤノ判斷モ亦裁判所之ヲ爲スヘキモノニシテ書記ハ之ヲ決定スヘキモノニアラサルナリ債權表ハ畢竟債權ノ調査又ハ配當ノ便宜ニ供スル爲メノ準備書面ニシテ縦令之ニ記載漏アリトスルモ適當ノ時期ニ届出テタル債權タル以上ハ一般調査期日ニ於テ調査ヲ爲スコトヲ得又書記ハ債權表ノ謄本ヲ作りテ之ヲ管財人ニ交付ス(草案第二百二十四條第二項)

現行法ニ依レハ届出ハ之ヲ受取リタルトキ直ニ順次番號ヲ付シテ二箇ノ表ニ記載ス一ハ優先權アル債權ヲ掲ケ他ハ通常ノ債權ヲ掲ク是レ一覽ノ便宜ノ爲メナリ(四商法第千二十)草案ニ於テモ記載ノ方法ハ適宜便利ノ方法ヲ取ルニ至ルヘシ

第六 届出ニ關スル書類並ニ債權表ノ閱覽

債權届出ニ關スル書類例ハ債權者ノ届出テタル書類書記ノ調書等並ニ書記ノ作リタル債權表ハ利害關係人即チ破産者破産管財人監査委員破産債權者等ノ閱覽ニ供スル爲メ裁判所書記課ニ之ヲ備ヘ置ク(草案第百二十五條)是レ彼等ノ權利保護ノ爲メ必要ナレハナリ尤モ現行法ニ於テハ債權表ノミヲ展閱ニ供シ届出書類ニ及ハス(四商法第千二十)

第二節 破産債權ノ調査

第一 一般調査ノ期日

裁判所カ破産宣告ト同時ニ定メタル債權調査ノ期日ヲ債權調査ノ一般期日ト云フ(草案第百四十九條)此期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ草案

ニ依レハ一週間以上一个月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要シ現行法ニ依レハ十日乃至十五日ノ期間ヲ存スルヲ通例トス(五商法第千三)是レ其調査ノ爲メノ準備ヲ爲サシメンカ爲メナリ故ニ若シ其期間ニ過不足アルトキハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二 調査ノ目的物

債權ノ調査ノ目的ハ届出テタル債權カ破産債權トシテ能ク破産手續上權利ヲ行ハシムルニ足ルヤ否ヤヲ確定セシムルニ在リ故ニ調査ノ目的物ハ債權ノ存否額及優先權ノ有無ナリトス(草案第百二十六條)判事ハ唯リ債權表ノミニ依ラス届書ニ付キ調査ヲ爲シ若シ債權表ニ記載漏アルトキハ之ヲ補充セシム是レ各債權ニ付キ調査ノ結果ヲ記載スルカ爲メニ必要ナレハナリ

第三 調査ノ方法並ニ參加人

調査ノ期日ニ於テハ草案ニ依レハ破産裁判所現行法ニ依レハ破産主任官之ヲ指揮監督シ其開始及終結ヲ司ル而シテ手續ハ口頭ニシテ其調書ヲ作成スヘキモノトス(五商法第千三)

裁判所ハ豫メ調査ヲ爲シ不適法ナル届出ヲ却下シ脱漏アルモノハ債權表ニ補充セシメ之ヲ當事者ノ調査ニ附ス又現行法ニ依レハ破產主任官ハ債權者ニ取引帳簿若ハ其抜書ノ提出ヲ命スルコトヲ得是レ其債權ノ存在ヲ知ルニ便ナラシメンカ爲メナリ(源商法第二百二十五條第二項)

調査ニ参加スヘキ者ハ破產管財人破產者及届出ヲ爲シタル破產債權者ナリトス管財人ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ其意見ヲ述フルコトヲ要シ病氣其他ノ正當ナル事由アル場合ニ限り代理人ヲシテ其意見ヲ述ヘシムルコトヲ得管財人又ハ其代理人ノ出頭ハ調査ノ必要條件ニシテ之ナクハ調査ヲ爲スコトヲ得ス(草案第二百二十七條第一項)破產者ノ出頭ハ必要的ニアラスト雖モ調査ノ便宜ノ爲メニハ其出頭アルコトヲ要シ裁判所ハ彼ノ出頭ヲ強制スルコトヲ得殊ニ破產手續終結後ノ彼ノ利益ヲ保護スルカ爲メニハ自ラ進テ其意見ヲ述フルコトヲ要ス(草案第二百二十七條第一項)又届出ヲ爲シタル破產債權者ハ自己ノ權利ノ自衛ノ爲メ債權調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルハ勿論トス然レトモ彼ノ出頭ハ任意ニシテ又代理人ヲ使用スルコトヲ得(草案第二百二十七條第二項)

#### 第四 期間後ノ届出

舊商法第二百二十五條第一項末段届出ヲ爲サル破產債權者ハ参加ノ權利ナキハ勿論トス

届出期間後ニ届出テタル債權モ亦破產債權トシテ破產手續ニ参加スルコトヲ得然レトモ其調査確定ニ付テハ管財人及破產債權者ノ異議ナキトキニ限り債權調査ノ一般期日ニ於テ其調査ヲ爲スコトヲ得蓋之カ爲メニ他ノ債權ノ調査ヲ遅延シ他ノ債權者ニ不利益ヲ來スコトアレハナリ仍テ管財人又ハ他ノ破產債權者ノ異議アリタルトキハ期間後届出ヲ爲シタル債權者ノ爲メニ債權調査ノ特別期日ヲ定ム此場合ニ於テハ其費用ハ期間後ニ届出ヲ爲シタル破產債權者ノ負擔トス(草案第二百二十九條第四項)其費用ノ中ニハ裁判所ノ費用ハ勿論之カ爲メニ管財人ノ報酬ヲ幾分増加スヘキトキハ其部分特別期日ノ公告費用他ノ破產債權者ノ出頭費用等ヲ包含ス

届出期間後ニ其届出テタル事項ヲ變更シタル場合ニハ新シキ届出ト同一視スヘク又債權調査ノ一般期日後ニ届出テタル債權ニ在リテハ特別期日ヲ定ムルノ外ナキモノトス又其期間後届出テタル債權者ハ特別期日ヲ定メシムル權利

アルモノトス(草案第二百三十一條)

債權調査ノ特別期日ニ關スル決定ハ管財人破産者及届出ヲ爲シタル破産債權者ニ送達スルコトヲ要シ又其期日ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第二百三十二條)是レ一般期日ニ關スル場合ト同一ノ理由ニ基ク(草案第二百五十二條)又特別期日ニ關スル決定ニ付テハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(草案第二百三十四條)是レ手續ノ遅延ヲ恐ルレハナリ

### 第五 調査期日ノ變更延期並ニ續行

破産管財人ノ出頭スルコト能ハサルコトノ如キ其他期日ニ於テ調査ヲ爲スコト能ハサル事由カ豫知セラレタル場合ニハ裁判所ハ期日ノ變更ヲ爲スコトヲ得此場合ニ送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論トス又一旦期日ヲ開始シタルモ調査ヲ爲スコト能ハサリシ場合ハ延期ヲ爲スコトヲ得又調査ヲ始メタルモ全部終了スルニ至ラサリシ場合ハ續行期日ヲ定ムヘキモノトス延期又ハ續行期日ヲ定メタル場合ニ於テ其決定ヲ言渡シタルトキハ送達又ハ公告ノ必要ナシ又是等ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス是レ手續ノ遅延ヲ

恐ルレハナリ(草案第二百三十四條)

## 第三節 破産債權ノ確定

### 第一 債權確定ノ要件

債權調査ノ期日ニ於テ即チ其一般期日タルト特別期日タルトヲ問ハス破産管財人及届出ヲ爲シタル破産債權者ノ異議ナカリシトキ又ハ其期日ニ於テハ異議アリタリトスルモ後日其異議カ除去セラレタルトキハ債權ハ之ニ因リテ確定ス(草案第二百三十五條)  
(法律第二百三十六條第一項)

債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘテ債權ノ確定ヲ妨ケ得ルモノハ管財人及届出ヲ爲シタル破産債權者ナリトス又調査ノ手續ハ口頭ナルカ故ニ縱令届出ヲ爲シタル破産債權者ト雖モ調査ノ期日ニ自ラ出頭セス又ハ代理人ヲ出サスシテ口頭ニテ異議ヲ述ヘサルトキハ不可ナリ換言スレハ豫メ書面ヲ以テ異議ヲ述ヘ置クモ其效ナシ

又破産者ノ異議ハ破産手續中ニ於テハ其效ナシ蓋破産者ノ異議ヲ有效トスルトキハ狼ニ異議ヲ述ヘテ破産手續ノ終結ヲ遅延セシムルノ虞アルノミナラス

破産財團ニ關スル點ニ付テハ管財人能ク其利益ヲ代表シテ異議ヲ述フルヲ以テ足レリトスレハナリ破産者ノ異議ハ唯破産財團ニ關係ナキ財産ノ爲メニ換言スレハ破産手續終結後ニ始テ有效タルナリ即チ破産者ノ異議ハ恰モ破産手續終結後ニ於ケル債權確定ニ反對スル留保ニ相當シ破産者カ一旦異議ヲ述ヘタルトキハ破産手續中ハ他ノ異議ナキカ爲メニ確定債權トシテ取扱ハレ之ニ對スル配當等ヲ受クヘシト雖モ破産手續終結後ハ其殘額タル債權ノ爲メニ債權表ニ基キテ破産者ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス必スヤ破産者ノ留保シタル異議ヲ排除スル爲メニ新ナル訴訟ヲ起スカ又ハ和解其他ノ手段ニ依リテ他ノ債務名義ヲ取得スルニアラスンハ強制執行ヲ爲スコト能ハサルナリ(草案第二百八十條以下)故ニ債權調査ノ期日ニ於テ破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付キ既ニ訴訟カ繫屬セルトキハ債權者ハ破産手續終結後ニ於ケル強制執行ヲ爲ス爲メニ破産者ヲ相手方トシテ其訴訟ヲ受繼クコトヲ得(草案第二百四十五條)是レ我草案トシテハ第八條ノ例外ヲ成スモノナリ

草案ハ右ノ如ク破産者ノ異議ノ爲メニ破産手續終結後ニ於ケル其效力ヲ認ム

ル主義ヲ採リタルモ現行法ニ於テハ破産者ノ異議ハ絶對ニ其效力ヲ認メス苟モ破産手續ニ依リテ確定シタル債權者ハ破産手續終結後ニ於テモ債權表ニ基キテ直ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲セリ(商法第四百九條)

草案ニ在リテモ破産者カ調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘサリシ債權ニ付テハ破産手續後破産者ニ對シテモ確定シタリトナスハ現行法ト同一ナリ尤モ草案ニ在リテハ破産者カ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハス爲メニ異議ヲ述フルコト能ハサリシ場合ニ付テハ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得セシメタリ(草案第二百八十三條)

現行法ニ於テハ右ノ外草案ニ比スレハ異議ヲ申立ツヘキ債權者ニ付キ制限ヲ設ケタリ即チ草案ニ依レハ届出ヲ爲シタル破産債權者ハ皆異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモ現行法ニ於テハ債權ノ確定シ若ハ貸借對照表ニ掲ケシ債權者タルコトニ限レリ是レ自稱債權者ノ妄ニ異議ヲ述フルコトヲ恐レタルニ依ルモノナリ又管財人自身ノ有スル債權ノ承認又ハ異議ハ破産主任官カ其管財人ニ代リテ之ヲ爲スモノト爲セリ(商法第二百六十六條)是レ自己ノ債權ニ對シテ自ラ之

ヲ承認シ又ハ異議ヲ述フルハ不當ナリト認メタルニ依ルモノナリ  
 異議ノ除去セラル、コトハ種々アルヘシト雖モ異議者自ラ其異議ヲ取下ケタ  
 ルトキノ如キ又ハ異議者自身ノ債權カ不存在ト確定シタルカ爲メニ破産債權  
 者トシテ其權利ヲ主張スルコト能ハサルニ至リ其者ノ主張シタル異議カ自ラ  
 其效力ナキニ至リタルトキノ如キ又ハ異議ヲ述ヘタル債權者カ其届出ヲ取消  
 シタルトキノ如キ又ハ異議ヲ理由ナシトシタル判決カ確定シタルトキノ如キ  
 即チ是ナリ異議ニ關スル訴訟ニ付テハ次節ニ述フヘシ  
 調査ノ期日ニ於ケル異議ニ付テハ其理由ヲ述フルノ必要ナシ其理由ヲ述フル  
 モ異議ニ關スル訴訟ニ於テ其拘束ヲ受クルコトナシ又優先權者ハ自己ヨリ劣  
 等ナル債權ニ付テハ異議ヲ述フルコトヲ得ストノ説ナキニアラスト雖モ劣等  
 債權者ト雖モ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行フ等破産手續ニ參與スル點ヨリ且  
 レハ優先權者ト雖モ劣等債權ノ存否ニ付キ利害ノ關スルモノナシト云フヘカ  
 ラス故ニ優先權者モ亦劣等債權ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ヘシ

第二 調査ノ結果ノ記載

債權調査ニ付テハ他ニ調査ヲ作ルト雖モ尙ホ其調査ノ結果ヲ明瞭ニセシカ爲  
 メニ其結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス即チ如何ナル額ニ於テ又ハ如何ナ  
 ル優先權ニ付テ異議アルカ又異議者ハ何人ナルカ等ヲ記載スルコトヲ要ス異  
 議ノ理由ハ別ニ記載スル必要ナシ又確定債權ニ付テハ固ヨリ確定ノ旨ヲ記載  
 スルモ之ニ付テハ特別ノ意味ヲ有スルカ故ニ次項ニ於テ之ヲ説明スヘシ又債  
 權表自身カ調査ニ關スル調査ノ構成部分ヲ成スカ故ニ判事竝ニ書記ハ之ニ署  
 名捺印スヘシ(民訴第百三十二條)  
 又書記ハ確定シタル債權ノ證書例ハ手形ノ如キ又ハ貸金證書ノ如キ債務證書  
 ニ確定ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス是レ債權者ヲシテ其債權ノ處分ヲ容易ナラ  
 シメンカ爲メナリ現行法ニ於テハ異議アリタル場合モ亦之ヲ附記セシムルモ  
 ノ、如シ又調査ノ結果ヲ各債權者又ハ其代理人ニ告知スルコトヲ要スルモノ  
 トシタリ(草案第二百三十三條第六項末段)

第三 債權確定ノ記載

債權確定ノ要件ハ既ニ説明シタルカ如ク管財人又ハ參加債權者ノ異議ナキコ

ト、若シ異議アリタリトスルモ其異議ノ除去セラレタルコト、ニ在リ故ニ此要件ヲ充シタリトスルモ未タ債權表ニ確定ノ旨ヲ記載セサル間ハ唯確定シ得ル状態ニ在リト云フニ止リ未タ確定判決アリト云フコトヲ得ス即チ債權表ヘノ確定ノ記載ハ確定要件ノ存在ヲ證明スル爲メノ調書作成ヲ意味スルト同時ニ裁判ヲ含ミ記載自身ニ因リテ確定判決ノ效力ヲ付與スルモノナリ故ニ記載自身カ重要ナル事項ニ屬ス(草案第二百三十七條)現行法ニ於テモ確定判決ト同一ノ效力ヲ發生スルハ其債權表ヘノ附記以後ナリト云フヲ可トス(舊商法第二百二十五條第二項後段)又其記載ニ因リテ判決同様ノ效力ヲ有スルハ破産債權者ノ全員ニ對スルモノトス其全員トハ即チ届出ヲ爲シタル債權者タルト否トヲ問ハス債權調査ノ期日ニ出頭シタル債權者タルト否トヲ問ハサルモノトス

#### 第四節 異議ニ關スル訴訟

##### 第一 總說

一 執行名義又ハ終局判決アル債權ト斯ル名義ナキ債權 既ニ述ヘタル如ク異議アル債權ヲシテ確定セシムルニハ其異議ヲ除去スルコトヲ必要トス而

シテ之ヲ除去スルニハ通常訴訟ニ依ル然ルニ訴訟ニ因リテ其異議ヲ除去スルニ付キ草案ニ於テハ既ニ執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債權トモ斯ル名義ナキ普通債權トノ二者ヲ區別シテ其取扱ヲ異ニセリ即チ後者ニ在リテハ異議ヲ除去スル爲メニ破産債權者ヨリ異議者ニ對シ訴訟ヲ提起シテ其債權ノ確定ヲ求ムルコトヲ要シ前者ニ在リテハ其既ニ存セル債務名義又ハ終局判決ノ效力ヲ重シ一應ハ其債權ノ存在アルモノトシ異議者ニ於テ其異議ヲ主張セントセハ却テ斯ル名義アル債權者ニ對シ訴訟ヲ提起シテ以テ其債權ノ排斥ヲ努メサル可ラス故ニ無名義債權者ハ停止條件附ニ破産手續ニ參加シ有名義債權者ハ解除條件附ニ破産手續ニ參加スト云フヘキナリ(草案第二百三十八條)而シテ右名義ノ有無ニ付テハ届出ノ際ニ於テ債權者ヨリ裁判所ニ證明セサルヘカラス

然ルニ現行法ニ於テハ斯ル區別ヲ設ケス債權ノ確認ヲ求ムル債權者ハ常ニ原告ニシテ異議者ハ常ニ被告タリ故ニ現行法ニ於ケル異議ニ關スル訴訟ハ恰モ草案ニ於ケル無名義者ノ異議ヲ排除シテ債權ノ確定ヲ求ムル場合ニ該



當ス(舊商法第七條)

二五六

二 訴訟手續 異議ニ關スル訴訟ニ付テハ破産手續以外ニ於テ通常ノ訴訟手續ニ依リテ其爭訟ヲ決ス唯現行法ニ依レハ通常ノ訴訟手續ト異ル點四箇アリ

甲 裁判管轄ニ關シテ土地ノ管轄及事物ノ管轄如何ヲ問ハス異議ノ訴訟ハ總テ破産裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタルコト是ナリ法文ニ破産裁判所公延ニ於テト云フ是ナリ是レ破産裁判所ニ於テ同時ニ管轄スルトキハ事物ノ審理上便利ナリト認メタルニ由ルモノナリ草案ニ於テハ土地ノ管轄ニ付テハ現行法ト同一主義ヲ採リ破産事件ト同一管轄内ノ裁判所ニ依ラシムルコト、爲シタレトモ事物ノ管轄ニ付テハ普通ノ主義ヲ取り現行法ト之ヲ異ニセリ之ニ關シテハ後ニ細説スヘシ(草案第二百三十九條)

乙 審理上ニ於テ當事者ノ辯論主義ヲ捨テ、干渉主義ヲ取レリ即チ先ツ破産主任官ノ演述ヲ聽キ原被告兩造出頭シテ辯論ヲ爲スト否トヲ問ハス其審理ヲ終リ判決ヲ言渡シ開席判決ヲ爲スモ故障ニ因リテ不服ヲ申立ツルコトヲ許サス(舊商法第七條)是レ畢竟破産手續ヲ迅速ニ終結セシメンカ爲メナリ

丙 判決ノ時期ニ付テハ成ヘク債權者集會前ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトナセリ(舊商法第二十條)是レ異議アル債權ヲシテ債權者集會前ニ於テ其議決權ヲ行ハシムヘキヤ否ヤヲ速ニ決定セシメンカ爲メナリ草案ニハ乙丙ノ點ニ付テハ毫モ斯ル規定ヲ設ケス全ク通常一般ノ訴訟手續ニ依ラシムルモノトセリ

丁 異議ヲ受ケタル債權數多アルトキハ之ニ關スル裁判ハ成ヘク合併シテ其辯論及判決ヲ爲スヘキコト是ナリ

三 多數ノ異議者 多數ノ異議者アリタルトキハ破産債權者ハ其總テノ異議ヲ除去スルニアラスンハ其債權ハ確定スルニ至ラス故ニ債權者ハ多數ノ異議者ヲ以テ共同訴訟人トスルコトヲ得裁判所モ亦訴ノ併合ヲ命スルコトヲ得(民訴第四十八條)然ルニ其多數ノ異議カ理由ノ如何ヲ問ハス若シ同一ナル爭點ニ關係スルトキハ其多數ノ異議者ハ必要的共同訴訟人トナルモノナリ何

トナレハ破産關係ニ於テハ債權者ノ法律關係ハ唯一的ニノミ確定スヘキモノナレハナリ例ハ多數ノ異議カ其理由ハ異レトモ皆債權ノ成立ヲ否認シタル場合ノ如キ是ナリ然ルニ或異議ハ債權ノ成立ニ關シ或異議ハ其額ニ關シ又或異議ハ優先權ニ關スル場合ノ如キハ必要的共同訴訟ニハアラス唯通常ノ共同訴訟ノミ

四 異議ニ關スル訴ノ性質 債權者ヨリ異議者ヲ訴フルモノハ債權ノ存在、異議者ヨリ訴フルモノハ債權ノ不存在ニ對スル確認訴訟ニシテ給付ノ訴ニハアラス蓋債權ノ存在確定スレハ破産的配當ニ與ルコトヲ得ヘキカ故ニ或ハ給付ノ訴タルカ如キ外觀ナキニアラスト雖モ破産的配當ノ辨濟ヲ爲ス所ノ者ハ破産者彼レ自身ニシテ訴訟ノ相手方ニハアラス故ニ異議ノ訴其モノヨリ言ヘハ確認訴訟ナリト云フヲ可トス

第二 債務名義等ナキ債權ニ對シテ異議アリタル場合

此場合ニ於テハ債權者ヨリ異議者ニ對シテ其債權ノ確認ヲ求メサルヘカラス異議者若ハ破産者ヨリハ債權不存在ノ訴ヲ起スコトヲ得ス而シテ此場合ニ於

テハ裁判所ハ職權ヲ以テ債權者ニ其債權ニ關スル債權表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス(草案第二百三十八條)是レ其債權者ヲシテ調査ノ結果即チ何人カ如何ナル點ニ付テ異議ヲ申立テタルカヲ知悉セシメ以テ債權確認ノ訴ヲ提起スルニ便ナラシメンカ爲メナリ

而シテ此場合ノ債權確定ノ訴ハ土地ノ管轄トシテハ破産物件ト同一管轄地内ノ裁判所タルコトニ專屬セシメタリト雖モ事物ノ管轄ニ至テハ或ハ區裁判所タル破産裁判所タルコトアリ或ハ地方裁判所タルコトアリ(草案第二百三十九條)然ルニ此場合ニ於ケル訴訟ノ目的物ノ價額ハ債權ノ表面額ニ依ラスシテ配當ノ豫定額ヲ標準トシ破産裁判所之ヲ定ム優先權ノミニ付テノ争ノトキハ優先權アル場合ト非優先權ノ場合トノ配當ノ差額ニ依ル(草案第二百三十八條)然ルニ現行法ニ於テハ破産事件ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルカ故ニ事物竝ニ土地ノ管轄共ニ破産裁判所ノ專屬ナリトス(舊民法第七千二百七十七條)若シ異議アル債權ニ付キ訴訟カ既ニ破産者ト債權者トノ間ニ繫屬セルトキハ債權者ハ其債權ノ確定ヲ求メンカ爲メニハ異議者ヲ相手方トシテ其訴訟ヲ受

總クコトヲ要ス此場合ニハ異議者ハ恰モ破産者ノ位地ニ代リテ訴訟ヲ爲スモ  
ノ、如シ而シテ此場合ニ訴訟ノ受繼アリタルトキハ民事訴訟法ニ定メタル通  
常ノ手續ニ依ルコトヲ要ス是レ證書訴訟等ノ特別訴訟ハ債權確定訴訟トシテ  
不當ナリト認メタルニ依ルモノナルヘシ(草案第百四十四條)

債權者カ異議者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ訴訟ヲ受繼クコトヲ要スル目的物ノ  
範圍ハ債權調査ノ期日ニ於テ調査ヲ經タル事項ノミニ關スルモノトス例ハ先  
ニ届出テ、調査ヲ經タルモノヨリモ其額ヲ増加シ又ハ他ノ優先權ヲ提出スル  
カ如キハ全ク異議ニ關スル訴訟ノ目的ノ範圍以外ニ超脱スルモノナリ斯ノ如  
キハ之ヲ許スヘカラサルハ當然トス(草案第百四十一條)

第三 執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債權ニ對シテ異議アリタル場合  
此場合ニ於テハ異議者ヨリ異議ヲ主張セントモハ訴ヲ起スヘキコト既ニ述ヘ  
タルカ如シ而シテ現行法ニ於テハ斯ル區別ヲ設ケサルコトモ亦既ニ述ヘタリ  
然ルニ此場合ニ異議者カ訴ヲ起スニハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ  
依ルコトヲ要ス(草案第百四十二條)蓋執行力アル債務名義ヲ有スル場合ニ於テハ債權

者ハ箇々ノ強制執行ヲ爲シ得ヘキノ状態ニ在リ從テ破産的一般ノ執行ニモ亦  
參加シ得ヘキヲ當然トス故ニ異議者ニ在リテハ自ら進テ其債務名義ヲ打破セ  
サルヘカラス又終局判決ノ場合ニ於テモ一旦債權者ノ勝訴ニ歸シ居ルモノナ  
ルカ故ニ上訴其他ノ手段ニ依リテ其判決ヲ覆ヘスノ手段ヲ取ラサルヘカラス  
然ルニ其債務名義若ハ終局判決タルヤ何レモ破産者ニ對シテ有セル名義若ハ  
判決ナルカ故ニ之ヲ排除スルニ付テモ若シ破産ノ宣告ナカリシトキハ破産者  
カ現在取り得ヘカリシ手段ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス而シテ其手段ハ各名  
義ノ性質ニ依リテ異ラサルヘカラス又訴訟緊屬中ニ在ルモノヲ異議者カ受繼  
ク場合ニ於テハ恰モ緊屬中ニ在ル訴訟ヲ債權者カ受繼キタル場合ト其状態ヲ  
同ウス

裁判ノ管轄ニ付テハ各場合毎ニ異ルカ故ニ固ヨリ破産裁判所專屬ノ規定ニ依  
ルコトヲ得ス(草案第百三十九條)

第四 異議ニ關スル訴訟ノ終了前ニ於ケル破産ノ終結  
異議ニ關スル訴訟ノ緊屬中破産カ配當ニ依リテ終結シタルトキハ該訴訟ハ其

影響ヲ受クルコトナク從來ノ當事者間ニ之ヲ繼續ス而シテ其訴訟ノ結果届出債權者カ敗訴シタルトキハ其債權者ノ爲メニ留保シ置ケル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ追加配當トシテ配當シ破産者ニ復歸セシムルコトナシ之ニ反シテ届出債權者勝訴シタルトキハ其者ニ之ヲ拂渡ス(草案第二百四十六條、第二百七)若シ破産カ強制和議(協約)若ハ其廢止(停止)ニ依リテ終結シタルトキハ異議ニ關スル訴訟ハ其目的ヲ失フニ至リタルモノナリト雖モ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムルカ爲メニ其訴訟ヲ續行ス

第五 債權表ノ更正並ニ判決ノ效力

異議ニ關スル訴訟カ確定シタルトキハ管財人又ハ破産債權者ノ申立ニ因リテ裁判所ハ債權表ノ更正ヲ爲スコトヲ要ス其更正ヲ適當ト認ムルトキハ裁判所ハ決定ヲ用キルコトナク直ニ之ヲ行フカ故ニ之ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ配當表ニ對シテ異議ヲ述フル場合ニ於テ當事者ハ債權表ノ更正ニ對シテモ亦自ラ異議ヲ述フルコトヲ得(草案第二百四十三條)異議ヲ理由アリトシ又ハ理由ナシトシタル判決カ確定シタルトキハ其判決ハ

破産債權者ノ全員ニ對シテ其效力ヲ有ス(草案第二百四十四條)蓋破産債權ノ確定ハ破産債權者全員ニ對シテ同一ナラサルヘカラス一人ニ對シテ債權カ肯定セラレ一人ニ對シテ否定セラル、カ如キハ破産手續ノ性質上許サ、ル所ナリ故ニ異議ヲ理由ナシトシタル判決カ確定シタルトキハ破産債權者ノ全員即チ異議ヲ申立テサリシ者ニ對シテモ亦其效力ヲ有シ其債權ハ確定セラル、ニ至ル然レトモ多數ノ異議ノ存在シタルトキハ其總テノ異議カ判決ニ依リテ確定セラレサルヘカラサルヤ論ナシ又異議カ理由アリト云フ判決ノ確定シタルトキハ縱令多數ノ異議中唯僅ニ一箇成立シタル場合ト雖モ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生シ債權ノ確定ヲ妨クルニ至ルモノトス

又異議ニ關スル訴訟ニ因リ破産財團カ利益ヲ受ケタルトキ例ハ異議カ理由アリタルカ爲メニ届出債權者ニ對スル配當額トシテ供託シ置ケル部分カ破産財團ニ戻リ來リタルトキノ如キ又優先權ニ對スル異議カ理由アリタルカ爲メニ普通債權トシテ配當ヲ爲シ爲メニ破産財團カ利益スルニ至リタルトキノ如キ場合ニ於テハ破産債權者ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テ訴訟費用ノ

償還ニ付キ財團債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得(草案第三十條第五號)而シテ破産財團ヨリ其償還ヲ爲シタルトキハ勝訴者カ敗訴者ニ對シテ有スル請求權ハ破産財團ニ讓渡スヘキモノトス

又管財人カ異議者トシテ訴訟ヲ爲シ敗訴シタルカ爲メニ支拂フヘキ訴訟費用ハ破産財團ヨリ財團債務トシテ支拂フヘキモノトス(草案第三十三條第三號)又管財人カ勝訴シタル場合ノ訴訟費用請求權ハ財團ノ資産トス

第六 他ノ官廳ノ管轄ニ屬スル事件

特別裁判所、行政裁判所、行政廳又ハ會計検査院ノ管轄ニ屬スル事件及刑事裁判所ニ於ケル公訴附帶ノ私訴ニ付テハ之ヲ破産裁判所ノ管轄ニ屬セシムルコト能ハスト雖モ其債權ニ對スル異議ノ訴訟ニ付テハ當該各官廳ニ於テ之ヲ決定セシムルモノトス(草案第九十九條)

第十六章 破産ノ終結

第一節 配當

第一 配當ノ種類

配當ニ三種アリ中間配當、最後ノ配當、追加配當是ナリ一般ノ債權調査終了前ニハ管財人ハ毫モ配當ヲ爲スコトヲ得ス是レ然ラズンハ債權ハ未タ確定スルモノナク破産財團モ亦其以後始テ換價スルコトヲ得レハナリ(草案第一百八十八條、第六條第一項)然ルニ一般ノ債權調査後ニ在リテハ既ニ破産財團ヲ換價シテ現金カ配當ヲ爲スニ足ルヘキ額ニ達シタルトキハ其度毎ニ幾回ニテモ管財人ハ遲滯ナク其配當ヲ爲スコトヲ要ス是レ管財人ノ義務ナリトス如何トナレハ破産債權者ノ爲メニ利益ナレハナリ斯ル配當ヲ中間配當ト稱ス最後ノ配當ハ破産財團ノ換價ヲ終リタル後ニ於テ遲滯ナク之ヲ爲スコトヲ要シ其數一回ナリトス追加配當ハ最後ノ配當アリタル後或原因ニ依リ新ニ配當スヘキ財産アルニ至リタル場合ニ於テ最後ノ配當ノ補充トシテ其都度之ヲ爲スヘキモノトス故ニ其數幾回ナルヲ知ラス現行法ニ於テハ財團ノ換價及配當ヲ全ク終リタル時ニ於テ破産終結ノ決定ヲ爲スヘキモノト爲シタルカ故ニ追加配當ヲ爲スノ機會ナシ(草案第四十八條)若シ破産終結決定後ニ於テ事實上破産財團ニ屬スヘキ財産カ發見セラレタリトスルモ追加配當ニ關スル特別ノ規定ナキ以上ハ破産

管財人ノ職務ハ既ニ終了セルニ依リ破産者ニ於テ自由ニ之ヲ處分シ得ルモノト云ハサルヘカラス

第二 配當ニ關スル通則

管財人カ配當ヲ爲サントスルトキハ監督委員ノ同意若シ監督委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス現行法ニ依レハ破産主任官ノ認可ヲ必要トス(草案第二百五十一條、舊商法第四百四十六條第一項)

管財人ハ配當ノ準備トシテ配當表ヲ作成スルコトヲ要ス之ニ記載スヘキ事項ニ付テハ草案ハ第二百五十二條ニ規定セリ現行法ニハ規定ナキモ略之ト同様ナルヘキハ勿論トス而シテ配當表ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スルカ爲メ裁判所書記課ニ備ヘ置クコトヲ要シ尙ホ其配當ニ加フヘキ債權ノ額及配當スヘキ金額ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第二百五十三條、舊商法第四百四十六條第一項)

配當ニ加ハルヘキ債權者ハ確定債權ヲ有スル者タルコトハ勿論トス然ルニ異議アル債權ニ付テハ除斥期間内即チ配當ノ公告ノ日ヨリ二週間内ニ其債權ノ確定ニ關スル訴ノ提起又ハ既ニ繫屬セル訴訟ニ付テハ之カ受繼ヲ爲シタルコ

トヲ管財人ニ對シテ證明スルコトヲ要ス然ラズンハ配當ヨリ除斥セラル但異議アル債權ニ付キ執行力アル債務名義又ハ終局判決アル場合ニハ右ノ證明ヲ要セスシテ當然配當ニ加入セラル(草案第二百四十二條、第二百四十四條、第二百五十五條)尤モ其配當ヨリ除斥セラル、モ後ノ配當ノ除斥期間内ニ其證明ヲ爲ストキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得ル故ニ唯其配當ヲ受クルニ時ノ前後アルニ過キスシテ全ク損失ヲ被ルコトナシ(草案第二百六條)是レ債權ノ一般届出期間後ニ届出テタルカ爲メニ特別期日ヲ定メテ調査ヲ爲シタル債權ニ付キテモ同一ナリトス現行法ニ於テハ債權ヲ正當時期ニ届出テス又ハ債權ノ確定セサル債權者ハ以後ノ確定ニ因リテ爲スヘキ財團ノ配當ニノミ加ハルコトヲ得ト云ヒテ債權ヲ正當時期ニ届出テサリシ債權者ハ前ニ配當サレタル額ニ付キテハ全然損失ヲ被ルカ如キ外觀アリト雖モ現行法ノ精神ニ於テモ優先權者ノ外ハ平等ノ割合ヲ以テ財團ヨリ配當ヲ受クヘキモノナルカ故ニ遲レテ届出テタル債權者ト雖モ他ノ債權者ニ比シテ損失ヲ被ルヘキモノニハアラス故ニ後ノ配當ヲ爲スニ先チテ前ノ配當ニ於テ受クヘカ

リシ額ニ付キテ遅レテ届出テタル債權者ノ爲メニ殘額中ヨリ配當ヲ爲スヘキモノトス(舊商法第千四百五十九條)

配當表ニ對シテハ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限り現行法ニ依レハ其公告ノ日ヨリ起算シ十四日内ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得(草案第百五十七條)異議ヲ申立テ得ル者ハ配當表ノ内容ニ對シテ利害關係ヲ有スル者即チ破産債權者ニ限ル財團債權者ハ其權利ナシ何トナレハ配當表ニ依ラス優先的ニ辨濟ヲ受クヘキモノナレハナリ破産者モ亦此權利ナシ破産財團ノ處分權ハ管財人ニ專屬シ管財人能ク之ヲ代表スレハナリ而シテ異議ニ關スル訴訟ハ其終結ヲ速ニスル爲メニ通常訴訟ニ依ラス單ニ破産裁判所ニ申立テ、之ヲ爲スヘキモノト爲セリ即チ異議ハ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ口頭辯論ヲ經ルト否ト又書面又ハ口頭ニ依リテ當事者ノ意見ヲ徵スルト否トハ其自由ノ判斷ニ依リテ之ヲ決ス而シテ裁判ハ決定ナリトス異議申立テ却下シタル決定ハ異議者其相手方並ニ管財人ニ職權ニ因リ送達ヲ爲スコトヲ要シ之ニ對シテ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得(草案第百七條、第百九條)又異議ヲ

理由アリトシ配當表ノ更正ヲ命スル決定ヲ爲シタルトキハ總テノ利害關係人ニ送達スル代リニ之ヲ公告スルコトヲ要ス是レ手續ヲ簡ニスル爲メト即時抗告期間ノ算定ヲ一樣ニセン爲メナリ(草案第百七條)

配當表ニ對スル異議申立期間ヲ經過シタルトキハ管財人ハ遲滯ナク配當率ヲ定メ配當ニ加入スヘキ各債權者ニ對シ其通知ヲ發スルコトヲ要ス配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意若シ監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(草案第百八條)管財人カ配當率ヲ定ムルニハ先ニ配當スヘキ金額トシテ公告シタル金額ノ中ニ就テ適當ト認ムル範圍内ニ於テ過不足ナキヲ期シテ之ヲ爲スコトヲ要ス(草案第百四條)固ヨリ其額以上ニ出ツルコトハ之ヲ許サ、ルモ公告シタル金額ヲ悉皆當該配當期ニ於テ配當スルコトヲ要セサルナリ又場合ニ依リテハ其公告後財團債權等カ急ニ知レ來リタルカ爲メニ公告シタル配當金額カ減少シ來ルコトナキヲ保セス是レ亦固ヨリ妨ケサル所ナリトス而シテ配當表ニ對シテ異議アリタル場合ニ於テ其異議ノ落着ヲ待テ配當率ヲ定ムルハ至當ノ順序ナリト雖モ草案ニ於テハ配當ノ遲延センコトヲ恐レ異議申立期間經

過スレハ遲滯ナク配當率ヲ定メシムルモノトナセリ是レ其異議ノ結果如何ハ  
 畢竟後ノ配當ニ於テ其整理ヲ付ケシメントスル法意ナルヘシ故ニ管財人ハ異  
 議カ理由アリテ配當表カ更正セラルヘク見ユルトキハ配當ヲ爲スニ際シ能ク  
 注意ヲ用キ後日ノ救濟手段ヲ講シ置クコト肝要ナルヘシ然ルニ現行法ニ於テ  
 ハ配當案ニ對シテ異議ヲ申立ツル者ナキトキ又ハ異議ノ落着シタルトキ配當  
 ノ實施ヲ爲スヘキモノトシタルカ故ニ斯ル懸念ヲ生スルノ虞ナシ(西商法第千  
 四十七條前段)又配當率ハ財團債權者又ハ優先權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ハ悉ク平等ノ割合  
 ナルヘキハ勿論トス(草案第二十五條、第三十八條、第三十條)配當ノ實施ハ管財人之  
 ヲ爲ス實施ハ配當率ノ通知ヲ發シタルトキヨリ始ル債權者ハ此時ヨリ管財人  
 ニ對シテ配當金ノ請求權ヲ生ス管財人カ理由ナク配當ヲ遲延スルトキハ自ラ  
 責任ヲ負フ(草案第百六十一條)又債權者カ配當金ヲ受取ルヘキ時期ニ受取ラサ  
 ルトキハ却テ遲滯ノ責ニ任ス蓋配當金ハ債權者ヨリ進テ受取ノ手段ヲ取ルヘ  
 キモノトス其拂渡地ハ破産財團管理地ナリトス  
 管財人ハ配當ヲ實施スルニ付テハ後日ノ紛争ヲ絶ツ爲メニ債權ノ證書ニ配當

シタル金額ヲ記入スルコトヲ要ス(草案第百六十二條)現行法ニ依レハ管財人ハ各債權  
 者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲ス若  
 シ債務證書ノ提出ヲ爲スコト能ハサルトキハ破産主任官ノ許可ヲ得テ債權表  
 ニ依リ支拂ヲ爲スコトヲ得又孰レノ場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取書ヲ  
 記載スルコトヲ要ス是レ皆後日ノ證據ノ爲メナリ(西商法第千四十七條末段)  
 又配當ヲ受クヘキ債權者中解除條件附債權者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレ  
 ハ配當ヲ受クルコトヲ得ス(草案第百五十九條)是レ條件成就セシ場合ニ於ケル配當額  
 返還ノ豫備ノ爲メナリ又異議アル債權ニシテ訴訟ノ繫屬セルモノ等草案第二  
 百六十四條ニ列舉セルモノニ付テハ管財人ハ裁判所ノ命スル所ニ從ヒ之ヲ寄  
 託スルコトヲ要ス現行法ニ於テモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權及届出並ニ  
 調査ノ爲メ別段ノ期間ヲ定メラレタル在外國債權者ノ債權ニ付テハ以前ノ配  
 當ニ於テ其債權ニ歸スル割前ヲ留存ス(西商法第千二十九條末段)斯ノ如ク中間配當ニ於テ  
 寄託シタル金額ハ尙ホ破産財團ニ屬スルカ故ニ之ヨリ生セル利息モ亦破産財  
 團ニ屬スト云ハサルヘカラス之ニ反シテ最後ノ配當額トシテ割當テタル金額



ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ管財人カ當該債權者ノ利益ノ爲メニ其危險ト費用トニ於テ供託スルモノナルカ故ニ之ヨリ生セル利息ハ當該債權者ニ歸屬スルモノト云ハサルヘカラス(草案第七十四條第二項)

又除斥期間内ニ強制和議ノ提供アリ爲メニ配當ノ中止ヲ爲スコトアリ又其提供ノ否決ニ因リ配當ノ手續ヲ續行ス(草案第二百六十一條)

第三 最後ノ配當手續

管財人カ最後ノ配當ヲ爲サントスルトキハ縱令監査委員ノ同意アリタルトキト雖モ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(草案第六十五條)現行法ニ於テハ各配當總テ破産主任官ノ認可ヲ必要トス蓋最後ノ配當ハ破産ノ終結ヲ來スモノニシテ爾後破産債權者タルコトヲ得ヘキ者ヲシテ債權ヲ届出テ、破産手續ニ参加スルノ權利ヲ失ハシムルモノナルカ故ニ獨リ在來ノ債權者ノ意見ノミニ委スルコトヲ得ス故ニ裁判所ハ公益ニ鑑ミテ其時期ヲ決定スルモノトス又管財人カ最後ノ配當ヲ爲サントノ申立ヲ爲スヘキ時期ハ破産財團ノ全部カ其換價ヲ終ヘタル時トス即チ現行法ニ於テモ財團ノ換價及配當ヲ全ク終リタル時ト云ヘ

リ(西商法第四十八條)然レトモ草案ニ於テハ例外トシテ一ニノ換價シ能ハサリシ財團アルコトヲ妨ケス例ハ負擔附財產ノ如キ又ハ無資力者ニ對スル債權ノ如キハ之ヲ換價セントスルモ遂ニ換價スルコト能ハサル場合之アルヘシ仍テ草案ハ斯ル財產ニ付テハ債權者集會ニ於テ其最後ノ處分ヲ如何ニ處スヘキヤニ付テノ決議ヲ爲スヘキモノト爲セリ(草案第七十六條)仍テ債權者集會ニ於テハ或ハ斯ル財產ハ直ニ破産者ノ自由處分ニ委スルコトヲ得ヘク或ハ債權者中斯ル財產ヲ其配當ノ一部ニ對スル代物辨濟トシテ引受クル者アレハ直ニ其者ニ委スルコトヲ得ヘク適當ナル處分方法ヲ決議ス而シテ其決議ニ付テハ裁判所其執行ノ當否ヲ決定ス(草案第七十七條)

最後ノ配當ニ付テハ除斥期間ハ其配當ノ公告ノ日ヨリ一个月トス(草案第六十六條)現行法ニ於テハ中間配當ノ場合ト均シク十四日ナリトス(舊商法第四千四項)而シテ草案ニ於テモ最後ノ配當ニ付テハ現行法ト同シク配當ニ對スル異議落着後ニ於テ始テ管財人ハ各債權者ニ對シ遲滞ナク配當額ノ通知ヲ發スヘキモノトナセリ(草案第七十七條)中間配當ニ在リテハ配當率ヲ通知スルモ最後ノ配當ニ在リテ

ハ配當額ヲ通知シ配當ノ實施ハ其通知ヨリ始ル故ニ配當額ノ通知ヲ發スルマ  
テニ新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルトキハ管財人ハ直ニ配當表ヲ更  
正スルコトヲ要ス(草案第二百七十三條)

最後ノ配當ノ除斥期間ヲ經過スルマテニ條件附等ノ爲メ不確定ナリシ債權カ  
未タ確定ノ状態ニ至ラサルトキハ草案ハ概シテ打切り主義ヲ取リ其始末方ニ  
關スル規定ヲ設ケタリ草案第二百六十八條乃至第二百七十二條ノ規定是ナリ  
此他異議アル債權ニ付キ中間配當ニ於テ寄託シタル配當額最後ノ配當ニ於テ  
異議ノ未タ落著セサル債權ニ對スル配當額債權者カ受取ラサル配當額等ニ付  
テハ管財人ハ已ムヲ得ス裁判所ノ命スル所ニ從ヒ之ヲ供託シ置クコトヲ要ス  
(草案第二百七十四條)現行法ニ於テハ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權及届出並ニ調査ノ  
爲メ特別期間ヲ定メラレタル在外國債權者ノ債權ニ付テハ中間配當額ハ之ヲ  
留存シ置クドナシタルモ(舊商法第九千九百九十九條)最後ノ配當ヲ爲スニ當リテハ其異議落著  
後ニ之ヲ爲スモノトシタルカ故ニ異議アル債權等ノ爲メニ管財人ハ之ヲ供託  
スルノ機會ナシ(舊商法第九千九百九十九條)然レトモ債權者カ受取ラサル配當額ニ付テハ管

財人ハ如何トモ爲シ難シ現行法ノ下ニ於テモ民法ノ規定ニ從ヒ同シク供託ヲ  
爲シテ其責ヲ免ル、ノ外其證ナカルヘシ

管財人カ最後ノ配當ヲ爲シタルトキハ計算ノ報告ヲ爲スカ爲メ遲滯ナク債權  
者集會ノ申立ヲ爲シ該債權者集會カ終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決  
定ヲ爲シ且其決定ノ要領及原因ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第二百七十五條、第  
八百四十八條)

第四 追加配當手續

最後ノ配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルト  
キ例ハ異議アル債權ニ對スル配當額トシテ供託シ置ケル部分カ異議ノ理由ア  
リト確定シタルカ爲メニ他ノ債權者ヘ配當シ得ルニ至リタルトキハ管財人ハ  
追加配當ヲ爲サルヘカラス而シテ之ヲ爲スニハ裁判所ノ許可ヲ受クルコト  
ヲ要シ其許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク配當スヘキ金額ハ公告シ且各債權者  
ニ對シ配當額ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス而シテ追加配當ハ其性質寧ろ最後ノ  
配當ノ補充ト見ルヘキモノナルカ故ニ配當表ハ最後ノ配當ニ付キ作リタルモ

ノニ依リ新ニ之ヲ作ラス尙ホ追加配當ヲ爲シタルトキハ管財人ハ遲滞ナク計  
算報告書ヲ作り之ヲ裁判所ニ提出シテ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス(草案第  
百七十八  
條乃至第  
百八十條)而シテ現行法ニハ追加配當ニ關スル規定ナキコト前述シタルカ如  
シ

第五 配當ニ因ル破産終結ノ結果

破産者ハ爾後財産ノ管理及處分ノ權利ヲ回復ス故ニ從來破産財團ニ屬シタル  
財團ニシテ餘剩アルトキハ破産者ハ固ヨリ之ニ對スル處分權ヲ有スルニ至ル  
故ニ縱令追加配當ニ屬スヘキ財産ト雖モ破産者之ヲ處分シ終レルトキハ如何  
トモスヘカラス然レトモ異議アル債權ニ對スル配當額トシテ供託シタル部分  
ニ付テハ破産者之ヲ如何トモスヘカラス蓋斯ル配當額ハ其債權者ノ計算ニ於  
テ供託シタルモノナレハナリ  
破産管財人、監査委員及債權者集會ノ職務ハ皆終了ス唯管財人ハ異議アル債權  
ニ付テノ訴訟ヲ繼續スヘク又追加配當ヲ爲スヘキ職務アルハ勿論トス  
破産債權者ハ破産手續ニ於テ全部辨濟ヲ得ルコト能ハサリシ殘額ニ付テハ債

權表ニ基キテ破産者ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得(舊商法第百四十九條)但  
草案ニ於テハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタル債權ニ付テハ更  
ニ破産者ニ對スル債權確定ノ債務名義ヲ必要トスル旨ヲ規定シタリ

第二節 強制和議(協諧契約)

第一 強制和議ノ必要竝ニ其性質

配當ニ因ル破産終結ノ場合ハ既ニ述ヘタルカ如ク總テノ破産財團ヲ換價シ金  
錢トシテ各債權者ニ配當スルモノナルカ故ニ多クノ時間ト費用トヲ要シ其制  
合ニ債權者ニ對シテ多クノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス又破産者ニ在リテハ破産手  
續ニ於テ債權者ニ満足ヲ與フルコト能ハサリシ殘額ニ付テハ破産手續終結後  
ニ於テモ永久ニ其責任ヲ負フ然ルニ強制和議ニ在リテハ破産財團ヲ換價セス  
シテ破産手續ヲ終結セシムルモノナルカ故ニ時間ト費用トヲ節約シ得ルノミ  
ナラス破産者ニ在テハ強制和議ノ條件ニ從ヒ債務ノ一部ノ免除ヲ受ケ又ハ辨  
濟期ニ猶豫ヲ與ヘラル、モノニシテ常ニ其利益アリ又破産財團ノ管理及處分  
ノ權利ヲ速ク回復シテ專業ヲ再興スルノ機會ヲ作ルコトヲ得從テ親戚故舊ノ

者破産者ノ爲メニ出捐ヲ爲シテ之ヲ援クルヲ常トス故ニ債權者ノ爲メヨリ謂フモ強制和議ノ場合ハ配當ニ因ル破産終結ノ場合ヨリモ比較的多額ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得故ニ債權者ノ爲メヨリ謂フモ利益アリ又破産財團ヲ箇々ニ賣却スルトキハ多クハ十分ノ效用ヲ爲サス然ルニ之ヲ換價セス從來ノ如ク繼續シテ一團トシテ營業ニ使用スルトキハ其效用ヲ發揮シ得ヘシ故ニ強制和議ハ社會經濟ヨリ謂フモ利益アル方法ト云フヘシ

右ノ如キ利益アル方法ニ因リテ破産ヲ終結セシムルコトハ社會上望マシキ所ナルモ破産者ノ提供シタル條件ニ總債權者カ一致スレハ可ナルモ一致スルコトハ到底困難ナルヘキカ故ニ已ムコトヲ得ス多數者ノ議決ニ依リテ少數者ヲ拘束セシムルノ外ナシ其拘束スルハ即チ法律ノ力ニ依ル故ニ強制和議ノ性質ニ付テハ種々ノ説明アルモ強制和議ハ破産手續ナル訴訟事件ニ於テ破産者ト債權者トノ間ニ成立シタル訴訟上ノ和解ニシテ其破産手續ニ参加セサル者又ハ参加スルモ反對意見ヲ有シタル者ニ對シテ拘束力アルハ全ク法律ノ力ニ是レ因ルト解スルヲ至當トス

## 第二 強制和議ノ成立

強制和議ノ成立スルニハ先ツ破産者ヨリ之ニ對スル内容ノ提供ヲ爲スコトヲ要シ之ニ對シテ債權者集會ニ於ケル一定ノ多數ナル議決アルコトヲ要シ最後ニ裁判所ノ認可ヲ必要トス

一 破産者ノ提供 強制和議ハ獨リ破産者ヨリ之カ提供ヲ爲スコトヲ得破産管財人破産債權者等ヨリ之カ提供ヲ爲スコトヲ得ス又各種ノ法人ニ在リテハ其代表者ヨリ之カ提供ヲ爲スヘク又相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ハ其相續人ヨリ之ヲ爲スヘク相續人數人アルトキハ其一致ニ依ルコトヲ要ス(草案第八條舊商法第千三十八條第百八十一項)

提供ノ時期ニ付テハ草案ハ何時ニテモ其提供ヲ爲スコトヲ得ト規定セリ(草案第十六條)然レトモ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ強制和議ヲ決議スルコトヲ得ストナシタルカ故ニ其以後ハ提供ヲ爲スヘカラザルコト固ヨリ明ナリ(草案第九十五條)現行法ニ於テハ提供ハ原則トシテ第一ノ債權者集會ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトシタリ是レ第一ノ債權者集會ハ一般ノ債權調査會ヨリ四週

日後ニ之ヲ爲スヘキモノニシテ債權調査ノ結了シタル後ニアラスンハ債權ノ額及員數等モ確定セス又餘リ後レテ提供スルトキハ破産手續ノ延滞ヲ來ス仍テ第一ノ債權者集會ニ提供シテ其決議ヲ乞フモノトシタルナリ尤モ提供其モノハ第一ノ集會ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルモ其準備トシテ協諾契約ノ申立書ヲ少ナクモ第一ノ集會ノ二十日前ニ裁判所ニ差出シ裁判所ハ之ヲ公衆ノ閱覽ニ供シ且其旨ヲ公告シ置クヘキモノトス故ニ申立書ノ差出ハ畢竟準備ノ爲メニシテ第一ノ集會ニ於ケル申述ハ即チ提供トナルモノトス故ニ提供ノ時期ハ集會ノ日ナリトス右ノ如ク原則トシテ第一ノ集會ニ於テ提供スルモ例外トシテ十分ノ理由アルトキ即チ協諾契約ノ成立セラル、十分ノ見込アルトキハ以後ノ集會ニ於テモ之ヲ提供シ得ルモノトシタルナリ(舊法第千三十八條)提供ノ回数ハ現行法ハ唯一回ニ限ルモノトセリ是レ破産手續ノ延滞ヲ防ク爲メト若シ然ラスンハ破産者カ負擔ノ輕キ提供ヲ爲シテ強ニ試驗的ノ提供ヲ爲スニ至ルヘキヲ恐レタルトニ依ルモノナリ草案ニ於テハ理論上ハ提供ノ度數ニ制限ヲ設ケサルカ如クナルモ同第二百九十條第一號乃

至第四號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人又ハ監査委員ノ意見ヲ聽キ其提供ヲ棄却スヘキモノトシタリ  
提供ノ内容トシテハ先ツ辨濟ノ方法即チ辨濟シ得ラル、額換言スレハ債務ノ免除ヲ乞フ割合又ハ辨濟ノ猶豫期間等ヲ指示スルコトヲ要シ又擔保ヲ供セントスルキトハ其種類ヲ示シ之ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス(草案第百九十八條)現行法ニ於テハ内容ニ付テハ何等ノ規定ナキモ理論上固ヨリ斯ノ如クナラサルヘカラス

右ノ提供アルトキハ裁判所ハ先ツ之ニ對スル調査ヲ爲サ、ルヘカラス草案ニ依レハ調査ノ結果其提供カ數回目ノモノナルトキハ第二百九十條ヲ適用シ棄却スヘキモノハ之ヲ棄却シ棄却セサルモノハ監査委員ヲシテ之ニ關スル意見ヲ報告セシメ其報告書竝ニ提供ニ關スル書類ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置クコトヲ要ス(草案第百九十九條)現行法ニテハ法律上ノ義務ヲ履行セス又ハ有罪破産ノ判決ヲ受ケ又ハ其審問中ニ在ル者ハ協諾契約ノ提供ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ破産主任官ハ斯ル者

ノ提供ハ之ヲ退クヘシ又提供ハ凡テ破産主任官ノ認可ヲ受クヘキモノトシタルカ故ニ此他要件ノ具備スルヤ否ヤニ付キ其調査ヲ受クヘキハ勿論トス而シテ其認可アリタル後始テ提供ヲ爲スコトヲ得而シテ其申立書ハ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘテ公衆ノ閱覽ニ供シ且其旨ヲ公告スルモノトス(舊法第三十八條)

二 債權者集會ノ決議 強制和議ノ決議ノ爲メニスル債權者集會ノ期日ハ一ヶ月以内ニ於テ裁判所カ之ヲ定テ公告ス又其期日ハ申立ニ依リ債權調査ノ一般期日ト併合スルコトヲ得(草案第二百九十四條)現行法ニ於テハ協議契約ノ決議ハ第一ノ債權者集會ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トス而シテ之カ公告ヲ爲スヲ要スルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ

決議ノ時期ニ付テハ草案ニハ一般債權調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得ストノ制限ヲ置ケリ(草案第二百九十五條)是レ固ヨリ當然ノ事ニシテ前段ノ場合ニ在リテハ債權未タ確定セス後段ノ場合ニ在リテハ配當ニ依リテ破産手續將ニ終結セントスル時機ニ在レハナリ又草

案ニ依レハ詐欺破産ノ公訴ノ提起アリタルトキハ債權者集會ニ於テ強制和議ノ決議ヲ延期スルコトヲ得トナセリ是レ詐欺破産ノ公訴ノ繫屬スルトキ又ハ之ニ付キ有罪ノ判決カ確定シタルトキハ強制和議ハ不認可ト決定スヘキモノナレハナリ(草案第二百九十九條)然ルニ現行法ニ於テハ獨リ詐欺破産ノ場合ノミナラス過怠破産ノ場合ニ於テモ其審問中ニ在ル場合即チ豫審若ハ公判中ニ在ル間ハ協議契約ノ提供ヲ爲スコトヲ得サルモノトシ又縱令協議契約ノ成立アルモ審問中ハ其執行ヲ停止ス(舊法第四百三十八條第一項)強制和議ノ條件ハ各債權者ニ付キ平等ナルコトヲ要ス但ト利益ヲ受クル者カ同意ヲ爲シタルトキハ此限ニアラス(草案第二百九十七條)是レ固ヨリ當然ノ事トス若シ然ラズンハ少數反對意見者又ハ破産手續ニ參加セサル者ノ利益ヲ害スルニ至ルヘケレハナリ現行法ニ於テモ不公平ナル條件ノ決議ハ之ヲ認可セサルヘキカ故ニ其結果同一ナリトス(舊法第四百一十一條第二號)又其條件ハ強制和議ノ決議アルマテハ破産債權者ニ利益ナル場合ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得(草案第四百九十九條)現行法ニ於テモ第一ノ債權者集會ニ於ケル提供ノ條件カ最初ノ申立

書ト異リタル場合ニハ唯債権者ニ利益ナル場合ニ限り其變更ヲ許スモノト云ハサルヘカラス然ラズハ關席債権者ノ利益ヲ害スレハナリ  
 強制和議ヲ可決スルニハ破産債権者ノ過半数ニシテ其債権カ破産債権者ノ總債権ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス(草案第九十九條)通常ノ債権者集會ノ決議ニ比シテ斯ノ如キ特別多數ヲ必要トナシタル所以ノモノハ該決議ノ結果カ極テ重要ニシテ少數ノ反對意見ヲ有シタル者ハ勿論破産手續ニ參加セサル債権者ヲモ拘束スルニ至ルヲ以テナリ而シテ草案ノ規定ニ依レハ通常ノ債権者集會ノ決議ハ出席破産債権者ノ過半数ニシテ其債権カ出席破産債権者ノ總債権ノ半額ニ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス(草案第七十四條)然ルニ強制和議ノ可決ニ付テハ單ニ破産債権者ト云ヒテ其出席タルト關席タルトヲ區別セサルニ依リテ之ヲ觀レハ單ニ出席セル者ノミヲ算スヘキモノニアラサルヲ知ルニ足ル即チ頭數ヨリ云ヘハ債権者集會ニ出席シテ評決ニ與リ得ル資格アル者ノ過半数ニシテ債権ノ額ヨリ云フモ其總債權額ノ四分ノ三以上ノ賛成アルコトヲ要ス斯ノ如ク頭數並ニ債權ノ額ノ雙方ニ付テ

關席者ヲモ包含セシメテ斯ル多數ヲ要ストナスハ頗ル嚴密ナル議決方法ト云ハサルヘカラス獨逸ニ於テハ頭數ニ付テハ出席員ノ過半数トナシ債權ノ額ニ付テハ關席者ノ分モ加算シテ四分ノ三ヲ得ヘキモノトセリ(現行法第八十二條)現行法ニ於テモ獨逸ト同シク頭數ニ付テハ出席者ノ過半数ヲ得レハ足レリトシ唯債權額ニ付テハ關席者ノ分ヲモ合算シタル總債權額ノ四分ノ三以上ヲ得ルコトヲ必要トシタリ(西國法第一千九十九條第一項)頭數並ニ債權額雙方ニ於テ多數ヲ必要トスル所以ハ他ナシ少數多數ノ債權者若ハ多數少數ノ債權者カ該決議ニ於テ專斷ナル決議ヲ爲スニ至ランコトヲ豫防セシカ爲メナリ而シテ頭數ニ付テハ一人ニシテ多數ノ債權ヲ有スルトキハ一員ニ算スヘク又一人カ多數ノ債權者ヲ代理スルトキハ多人數トシテ算スヘシ  
 而シテ草案ニ於テハ期日ニ於テ右ノ如キ可決スヘキ多數ヲ得ルコト能ハザリシトキト雖モ草案第三百條列舉ノ一號及二號ノ場合ニ於テハ和議提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一回ニ限り續行期日ヲ定メテ之ヲ言渡スコトヲ要スルモノトナセリ然ルニ現行法ニ於テハ僅ニ一回ニ限り協諾契約ノ提

供ヲ爲シ得ルモノトシ又斯ル續行期日ヲ定ムルコトノ規定ナシ  
三 裁判所ノ認可 強制和議ノ提供カ債權者集會ニ於テ否決サル、トキハ破

産手續ハ續行セラル若シ法定ノ多數ヲ得テ可決セラレタルトキハ裁判所ノ  
認可ヲ得テ成立ス(草案第三百一十條、舊  
商法第四百十條)

裁判所ハ債權者集會ニ於テ可決セラレタル強制和議ニ付テ能ク法定要件ヲ  
具ヘタルヤ否ヤ等ヲ調査シ其認否ニ付テ決定ヲ爲ス當事者ハ其認否ニ付テ  
意見ヲ述フルコトヲ得(草案第三  
百二條)然ルニ法律上不認可ノ決定ヲ與フヘキ場合  
ニ付テハ草案第三百三條ニ之ヲ列舉セリ

現行法ニ於テハ協議契約ノ債權者集會ニ於テ可決セラレタルトキハ管財人  
及議決權アル債權者又後ニ債權ノ確定シタル債權者ヨリ該契約ニ對シテ十  
日間内ニ理由ヲ附シテ異議ヲ裁判所ニ申立テ得ルモノトシ其期間滿了後直  
ニ裁判所ハ破産主任官ノ演述ヲ聽キタル後協議契約ノ認可又ハ棄却ニ付テ  
ノ決定ヲ爲スモノトス(舊商法第三百十九條、  
第二項、第四百十條)而シテ法律上棄却ノ決定ヲ與フ  
ヘキ場合ハ同第四百十一條ニ列舉セリ

裁判所ノ強制和議認可若ハ不認可ノ決定ニ對シテハ當事者ヨリ即時抗告ニ  
依リテ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得(草案第三百九條、舊商  
法第四百十條末段)

第三 強制和議ノ效力

破産管財人ハ強制和議認可ノ決定確定シタルトキハ財團債權者及確定債權ヲ  
有スル一般ノ先取特權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス蓋是等ノ者ハ強制和議ノ效  
力ヲ受クヘキ者ニアラスシテ財團ヨリ先ツ辨濟ヲ爲スヲ當然トスレハナリ但  
異議アル財團債權及確定セスシテ疏明アリタルニ止ル一般ノ先取特權者ノ債  
權ニ付テハ供託ヲ爲スノ外ナシ(草案第三百十條、  
第三百十九條)此他管財人ハ最後ノ配當ノ許  
可アリタル場合ト均シク計算ノ報告ヲ爲ス爲メ遲滞ナク債權者集會招集ノ申  
立ヲ爲スコトヲ要シ該集會ノ終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決定ヲ爲  
シ且其決定ノ要領及原因ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第三百十一條、  
第三百十二條)現行法ニ於テ  
モ管財人ノ直ニ其執務ヲ罷メ且其執務ニ付キ計算ヲ爲スヘシト規定セリ(舊商  
法第四百十三條第一項)

破産者ハ破産終結ノ決定ノ公告後破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ヲ回復ス



是レ固ヨリ當然ニシテ破産手續終結後ハ破産財團ナルモノ存セサレハナリ但  
 強制和議ニ於テ破産者ニ或種類ノ財産ニ付テ自由ノ處分ヲ許サ、ルカ如キ制  
 限ヲ加ヘタルトキハ其制限ニ從フヘキハ勿論トス是レ畢竟破産債權者カ其自  
 衛ノ爲メ留保シタル權利ナレハナリ(草案第三百十三條、四商法第  
 千四十三條第一項、第二項)  
 破産債權者ニ對シテハ強制和議ハ其全員ノ利益ノ爲メニモ亦不利益ノ爲メニ  
 モ其效力ヲ有ス(草案第三百十  
 五條第二項)茲ニ所謂破産債權者ノ全員トハ破産手續ニ參加  
 シタルト否ト又強制和議ノ決議ノ爲メ出席シタルト否ト又其出席セルモ議決  
 ニ賛成シタルト反對シタルトヲ問ハサルナリ蓋強制和議其モノカ配當ニ依ラ  
 スシテ破産手續ノ終結ヲ來スコトヲ目的トスルモノナルカ故ニ若シ少數反對  
 意見者カ獨立シテ破産手續ヲ遂行シ得ヘクンハ強制和議ノ目的ハ到底之ヲ達  
 スルコト能ハサレハナリ故ニ法律ハ公益上ノ理由ニ基キ統一のニ破産手續ノ  
 終結アルモノトシ又破産手續ニ參加セサル者ニ對シテモ同一ニ其效力ノ及フ  
 モノトシタルナリ然ラスンハ是レ亦獨立の破産開始ヲ申請スルニ至ルヘケ  
 レハナリ而シテ強制和議ハ破産債權者カ破産者ノ保證人並ニ他ノ共同債權者

ニ對シテ有スル權利及第三者カ破産者ノ爲メニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ホサ  
 、ルハ勿論トス(草案第三百十  
 五條第二項)  
 而シテ強制和議ノ確定ハ債權者其モノ、確定ト異リ唯確定シタル債權ニ對ス  
 ル辨濟ノ方法等ヲ決定スルニ過キス故ニ債權ノ確定ハ別ニ其方法ヲ求メサル  
 可ラス即チ破産債權ノ確定ハ債權調査ノ期日ニ於テ何人モ異議ヲ述ヘサリシ  
 トキ確定ス而シテ破産者ノ異議ニ付テハ草案ハ破産手續外ニ於テ其效力ヲ認  
 ムルカ故ニ破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付テハ破産者ニ對スル確定ノ方法  
 ヲ講セサルヘカラス唯破産者ノ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限り破産者並ニ檢索  
 ノ利益ナキ保證人ニ對シ債權表ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得(草案第三  
 百十八條)  
 又現行法ニ依レハ協諾契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲スモノト  
 ス(商法第  
 三百三十四  
 條第三項)

第四 強制和議ノ取消及破産手續ノ續行

破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ強制和議ノ可決ニ必要ナル多數ノ  
 破産債權者ノ申立ニ因リ又詐欺破産ニ付キ有罪ノ判決カ確定シタルトキハ破

產債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得(草案第三十三條)

而シテ強制和議ノ取消アリタルトキハ破産手續ヲ續行ス其手續ハ草案第三百二十四條以下ニ規定スル所ナリ

現行法ニ於テハ協諧契約成立後破産者カ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキハ協諧契約ハ當然消滅スルモノトシタリ又協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成立シタルトキハ縱令認可アリタル後ト雖モ尙ホ之ニ對シテ異議ヲ申立テ、之ヲ取消スコトヲ得ルモノトナセリ(舊商法第千四十二條)斯ノ如ク協諧契約カ當然消滅シ若ハ取消サレ又ハ不履行ノ爲メ解除セラレタルトキハ破産手續ヲ再施シ直ニ財團ノ換價及配當ヲ爲シテ終局ニ至ラシム即チ破産手續ヲ續行スルモノトス但再施マテノ間ニ新ニ債權ヲ得タル者モ破産債權者トシテ該手續ニ參加スルニトテ得蓋該債權者ハ債務者ヲ普通ノ人ト信シテ取引ヲ爲シ其現在ノ財産ニ信用ヲ置キテ貸借ヲ爲シタルニ突然破産手續カ再施サレテ自己ノ擔保視シタル財産ハ皆舊破産債權者ノ辨償資金トシテ取去ラル、トキハ該債權者ノ迷

惑ハ察スルニ餘アリ又延テ社會ノ取引ノ安全ヲ害スルモノト云フヘシ仍テ該債權者ヲシテ破産手續ニ參加セシム  
又不履行ノ爲メ破産手續カ再施セラレタル場合ト雖モ協諧契約ノ爲メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免レサルハ勿論トス是レ其自ラ負ヒタル義務ナレハナリ(舊商法第千四十四條)

### 第三節 破産ノ廢止

草案ニ規定シタル破産廢止ノ場合ニ二種アリ一ハ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ破産手續續行ヲ拋棄シタル場合他ハ破産宣告後破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認めラル、ニ至リタル場合はナリ蓋破産ハ破産債權者ノ爲メニスル一般の強制執行ナルカ故ニ其手續ニ參加シタル全員カ同意シテ手續續行ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ爾後ノ續行ヲ廢止スヘキヲ當然トシ又破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ是レ亦其續行ノ目的ヲ失スレハナリ

#### 第一 破産手續續行ノ拋棄ニ因ル破産ノ廢止

一 要件 要件トシテハ先ツ破産者ノ申立アルコトヲ要ス破産管財人破産債

權者ハ其申立ヲ爲スコトヲ得ス裁判所ハ又職權ニ因リテ之カ決定ヲ爲スコトヲ得ス而シテ破産者ノ申立時期ハ債權届出ノ期間經過ノ後ナルトキハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得尤モ配當又ハ強制和議ニ依リテ破産ノ終結セサル前タルコトヲ要スルハ勿論トス又法人若ハ相續財産ノ破産ノ場合ニ在リテハ其代表者若ハ相續人ヨリ其申立ヲ爲ス(草案第三百三十四條第一項)次ニ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意ヲ必要トス其同意ノ意思表示ハ一方的訴訟行爲ニシテ契約ニアラス故ニ裁判所ニ對シテ書面若ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得破産者ニ對シテ爲シタル場合ハ書面ニ依リテ破産者之ヲ證明スルコトヲ要ス是レ多クハ裁判外ノ和解等ニ依ルモノトス而シテ不同意ノ確定債權者アリタル場合ニ於テハ破産者ハ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ以テ不同意者ニ満足ヲ與ヘ破産廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得是レ破産者保護ノ目的ニ出ツルモノナリ而シテ其満足ヲ與ヘタルヤ否ヤニ付テハ申立ノ際書面ニ依ル證明ヲ要ス又未確定ノ債權ニ付テハ裁判所ニ於テ其債權者ノ同意ヲ必要トスルヤ否ヤヲ定ム(草案

第三百三十四條

法人ノ破産ノ場合ニハ破産廢止申立ノ特別要件トシテ豫メ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要シ申立ノ際ハ書面ニ依リテ其證明ヲ爲スコトヲ要ス(草案第三百三十五條)

二

裁判 裁判所ハ其申立ニ依リテ之ヲ調査シ不適法ト認メタルトキハ之ヲ棄却シ適法ト認メタルトキハ其申立アリタル旨ヲ公告シ且其申立ニ關スル書類ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置キテ破産債權者ノ閱覽ニ供セシム而シテ破産債權者ハ右公告ノ日ヨリ二週間内ニ破産ノ廢止ニ付キ異議ヲ申立ツルコトヲ得其異議ハ未タ届出ヲ爲サル破産債權者モ亦之ヲ申立ツルコトヲ得ト雖モ其債權ノ存在ニ付キ疎明ヲ爲スコトヲ要ス(草案第三百三十七條)異議申立ノ期間經過後裁判所ハ破産者破産管財人及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽キ破産廢止ノ申立ニ付キ決定ヲ爲ス(草案第三百三十九條)而シテ申立ヲ理由ナシトシテ棄却スルトキハ破産者ニ送達シ(草案第八條)又破産廢止ノ決

定ハ其要領及原因ヲ公告ス(草案第三百一十一條)

三 效力 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ管財人ハ異議ナキ財團債權者

ニ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス異議アル財團債權ニ付テハ其辨濟額ヲ供託ス(草案

二百四十條)又節財人ハ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス(草案第三百四十一條、第

破産者ハ破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ヲ回復シ(草案第三百四十三條、第

産債權者ハ爾後債權表ニ基キテ箇々ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得(草案第二百

條第二項、第

第二 破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサル場合ノ破産ノ廢止

是レ現行法ニ所謂破産ノ停止ノ場合ニ該當スルモノナリ現行法ニ於テハ破産

財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産ノ宣告並ニ

其公告ノ手續ヲ盡シ爾後ノ手續ヲ停止ス然レトモ爾後破産手續ノ費用ヲ償フ

ニ足ル財産アルコトヲ利害關係人ヨリ證明スルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ

以テ其手續ヲ再施ス而シテ其停止中ト雖モ破産者ニ對シテハ破産ノ效力ヲ持

續ス唯破産債權者ニ對シテハ第四百四十九條ニ掲ケタル效力ヲ有シ箇々ノ強制

執行ヲ爲スコトヲ得ト雖モ是レ破産者カ破産財團ニ屬スヘキ新ニ得タル財産

等ヲ徒費シ去ランコトヲ豫防スルニ出テタルモノナリ故ニ破産手續再施ノ際

ハ各債權者カ執行ニ因リテ得タル財産ハ財團ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス(商

法第九百八

草案ニ於テハ破産宣告前ニ於テ財團カ破産手續費用ヲ償フニ足ラスト認メラ

レタルトキハ破産ノ申立ヲ棄却ス(草案第四百六條)然ルニ宣告後ニ於テ其事知レタル

トキハ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得尤モ裁判所ハ其決定前ニ債權者集會ノ

意見ヲ聽クコトヲ要ス但破産債權者カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額

ヲ豫納シタル場合及第四百四十七條ニ掲ケタル場合ハ廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ

得ス(草案第四百三

破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定ノ要領及原因ヲ公告スヘキコト並ニ

爾後ノ效力ニ付テハ破産債權者カ破産手續續行權拋棄ノ場合ニ付テ説明シタ

ル所ト同シ(草案第三百四十一條)

第十七章 罰則

破産ニ關スル罰則ハ從前ハ之ヲ刑法中ニ規定スルノ例多カリシト雖モ近時ハ立法ノ便宜上ヨリ之ヲ破産法中ニ規定スルニ至レリ獨佛二法我現行法並ニ草案皆然リ而シテ刑法ノ總則ハ破産ニ關スル犯罪ニ付テモ原則トシテ皆適用セラル、ニ至ルモノトス(刑法第...)又刑事破産ノ手續ハ總テ刑事裁判所ノ司ル所ニシテ破産裁判所ノ管掌スル所ニアラス

今破産ニ關スル罰則ノ適用ヲ受クル者ヲ其身分ニ依リテ區別シテ説明スレハ左ノ如シ

第一 破産管財人

其職務ノ執行上民事ノ責任ニ付テハ善良ナル管理者ノ注意ヲ用キルヲ要スルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ其注意ヲ怠リタルトキハ總テノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責任アリ(草案第百六十一條)然ルニ國家ハ尙ホ之ニ刑事上ノ責任ヲ科シ管財人其職務ノ執行ヲ怠リタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スルモノト爲セリ而シテ其過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ヲ準用ス(草案第...)

現行法ニ於テハ管財人カ第千五十條ニ所謂詐欺破産タル所爲ヲ爲シタルトキハ破産者ト同シク之ヲ罰スル旨ノ規定アリ(商法第...)草案ニ於テハ斯ル特別ノ規定ナシ唯致唆者若ハ從犯者タル場合ニ刑法總則ノ規定ニ從ヒテ處罰セラル、コトアルヘシ

第二 破産ニ關シ説明義務アル者

草案第百十八條ニ依リ説明ヲ爲ス義務アル者即チ破産者及其代理人、代理人タリシ者並ニ相續人又相續財産ニ對スル破産ニ於ケル前戶主、相續人、相續財産管理人及遺言執行者カ破産ニ關スル説明ノ爲メ管財人又ハ監査委員ノ請求アルモ正當ノ事由ナクシテ出頭セサリシトキ又ハ破産ニ關スル説明ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキ又ハ破産ニ關シ虛偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ草案ニ於テハ六月以下ノ輕禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スルモノト爲セリ尤モ虛偽ノ説明ノ場合ハ破産ノ終結前自白ヲ爲セハ本刑ヲ免セラル(草案第...)是レ此種ノ制裁ナクシテハ之ヲ強制スルコト能ハスト認メタルニ依ルモノナリ現行法ニハ之ニ關スル規定ナシ

第三 破産者

草案第三百四十六條ニ列舉シタル行爲ハ現行法第千五十一條ニ列舉シタル所謂過怠破産ノ場合ニ相當ス又草案第三百四十七條ニ列舉シタル行爲ハ現行法第千五十條ニ列舉シタル所謂詐欺破産ノ場合ニ相當ス二者ノ處罰セラル、根據ハ之ニ因リテ債權者ノ財産的請求權カ迫害ヲ被ルノ點ニ在リ而シテ二者共ニ支拂ノ停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス行ハレタル行爲タルコトヲ豫想スルカ故ニ右兩條ニ列舉シタル破産行爲カ必スシモ支拂ノ停止又ハ破産宣告ノ原因トナリタルコトヲ要セス唯時ノ關係ニ於テ破産行爲ト支拂ノ停止又ハ破産宣告トハ前後ノ牽連アルニ過キス又右ノ破産行爲ニ因リテ處罰セラレ、ハ必ス破産者タルコトヲ要スルコトハ現行法ニハ破産宣告ヲ受ケタル債務者ト云ヒ草案ニハ破産者カ云々ト明言セルニ因リテ明瞭ナリ從テ共犯關係ニ於テハ實行正犯タル者ハ破産者ノミニ限ル故ニ現行法第千五十二條若ハ草案第三百四十八條ニ所謂法人ノ代表者數人アル場合ニ於テ共同シテ破産行爲ヲ行ヒタル場合ニ於テ實行正犯者數人アルコトヲ得ヘシ故ニ破産者以外ノ共犯者

トシテハ教唆者若ハ從犯者ナリトス而シテ現行法ニ於テハ第千五十二條後段ニ於テ第千五十條ノ罰則ハ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケタル者ニモ亦適用スト明言セルニ由リ此反對ノ推理ヨリシテ之ヲ考フレハ共犯ノ適用ハ獨リ詐僞破産ノミニ限リ過怠破産ニ共犯ナシト解セサルヲ得ス又過怠破産ト詐僞破産トノ二者區別ノ要點ハ破産債權者ヲ害スル目的ヲ以テ爲シタル行爲タルト否トノ點ニ在リトス又兩者ノ刑罰ニ付テハ現行法ハ過怠破産者ヲ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ詐僞破産者ヲ輕懲役ニ處スルモノトセリ(明治二十三年十月法律第百一號)然ルニ草案ニ於テハ前者ヲ六月以下ノ重禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ後者ヲ輕懲役又ハ二年以上ノ重禁錮ニ處スルモノトセリ尙ホ兩者ノ各行爲ノ説明ハ之ヲ略ス

第四 破産者ノ法定代理人並ニ相續財産ノ破産ニ於ケル前戸主及ヒ相續人

此等ノ者カ過怠破産若クハ詐僞破産ノ行爲ヲ行ヒタルトキハ彼レ等自身ハ破産者ニ非サルカ故ニ直チニ前述シタル規定ヲ適用スルコト能ハサルモ事實

ニ於テハ彼等自身ノ行爲カ破産者ノ行爲ト同視セラルヘキモノナルカ故ニ彼等自身ヲ以テ破産者ト同一ノ刑ニ處スルモノトス(草案第三百四十八條、舊商法第五百二十二條前段)

第五 第三者

支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス破産者ノ利益ノ爲メ破産財團ニ屬スヘキ財産ヲ藏匿又ハ脱漏シタル者並ニ自己破産者又ハ第三者ノ利益ノ爲メ虚偽ノ債權ヲ破産債權トシテ行ヒ又ハ他人ヲシテ之ヲ行ハシメタル者ハ輕懲役又ハ二年以上ノ重禁錮ニ處ス(草案第三百四十九條)蓋シ前者ハ破産者ノ資産ヲ減少セシメ後者ハ負債ヲ増加セシムルモノニシテ支拂停止又ハ破産宣告アリタルコトヲ知リテ故意ニ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ爲スモノタルコト明カナリ而シテ其行爲ハ草案第三百四十七條ニ列舉シタル第一號及ヒ第二號ニ該當シ破産者カ之ヲ行フトキハ詐偽破産トナル然ルニ本條ハ第三者カ之ヲ行フトコトヲ豫想スルモノナルモ其債權者ヲ害スル點ニ於テハ一ナリ故ニ同一ノ刑ヲ科ス現行法ニハ第五十條ノ行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル場合ノミヲ豫想シテ之ヲ處罰シタリ(商法第五百十二條末段)

第六 破産債權者并ニ投票買収者

債權者集會ニ於テ一定ノ表決ヲ爲シ又ハ表決ヲ爲サ、ルコトヲ條件トシテ賄賂其他ノ特別利益ヲ收受シ又ハ約束セシメタル破産債權者并ニ其相手方ハ一年以下ノ重禁錮若クハ輕禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス且收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收シ沒收シ能ハサルモノハ其價額ヲ追徴ス尤モ破産債權者ノ相手方ニ在リテハ債權者集會ノ決議前ニ自白ヲ爲シタルトキハ其本刑ヲ免セラレ(草案第三百五十一條、第三)蓋シ本罪ハ債權者集會ニ於ケル決議投票ノ賣買ヲ禁壓シタルモノナリ而シテ本罪ハ收受若クハ約束セシメタルノミニテ成立スルモノニシテ果シテ破産債權者カ買収ノ目的ニ從フテ投票シタルヤ否ヤ又其投票カ有效ニシテ能ク反對決議ヲ爲サシムルニ足リタルヤ否ヤ又其賄賂無クシテ債權者ハ反對ニ決議スル意思ナリシヤ否ヤ又債權者ハ果シテ該決議ニ參加シタリシヤ否ヤハ問ハサルモノトス

現行法ニ於テモ賄賂當事者ノ雙方ヲ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス(商法第五百十三條)

### 第十八章 破産ヨリ生スル身上ノ效果

#### 第一節 身上效果ノ理由

破産者ノ公私權ノ上ニ何等ノ制限ヲ加ヘス普通人ト同一ニ取扱フコトハ今日ノ如キ公德ノ未タ進歩セサル世ノ中ニ在リテハ到底能ハサル所ナリ何トナレハ若シ之ヲ同一ニ取扱ヘハ破産ノ忌ムヘキヲ知ラス他人ヲ害シテ容易ニ破産宣告ヲ受ケテ恬トシテ耻チサルニ至ルヘケレハナリ殊ニ破産者ノ如キ恒産ナク信用ナキ者ハ社會上名譽アリ信用アル地位ニ立タシムルコトヲ得ス故ニ現行破産法並ニ他ノ特別法ニ於テハ幾多ノ制限アリ(舊商法第一千五百四條、市町村制第九條、取引法第十條、貴族院選舉法第九百十六條、議院法第七十四條、民然レトモ斯ル制限ハ債務ヲ完済セサルヨリ當然生スル結果ニハ非スシテ各制限毎ニ特別ニ公益上ノ理由ニ基キテ之ヲ附與シタルモノニシテ之ヲ以テ破産即チ債務ヲ完済セサル直接ノ效果ナリト見ルハ不當ナリトス)

草案ニ於テハ他ノ特別法ニ於テ公私權ニ制限ヲ設クルモノハ格別破産其物ノ直接ノ效果トシテ身上ニ效果ヲ及ホス立法ノ仕方ハ之ヲ避ケタルモノ、如シ(草案第三

三百六十)

#### 第二節 復權

復權トハ破産宣告ニ因リテ受ケタル身上ノ效果ヲ消滅セシムル裁判上ノ手續ナ

第一 要件 破産者カ辨濟其他ノ方法ニ依リ其債務ノ全部ノ免責ヲ得タルコトヲ要ス(草案第三百五十二條)故ニ如何ナル方法ニ依ルモ債務全部ノ免責アレハ足レリ然ルニ現行法ニ於テハ債務全額ノ辨償ヲ要スルモノトシ其辨償トハ現實的ノ債務消滅方法ヲ意味シ免除時効等ニ因ル免責方法ヲ包含セサルカ如シ是レ無用ノ干渉ト云フヘキカ故ニ草案ハ之ヲ廢セリ(舊商法第一千五百五條)又現行法ニ於テハ詐偽破産者、過怠破産者等ニ付テモ復權申立ニ付テ或ハ全ク之ヲ許サヌ或ハ其期間ニ付テ制限ヲ設ケタルモ草案ハ必要ナシトシテ之ヲ廢セリ(舊商法第一千五百八條)又現行法ニ於テ債務者ノ死亡後モ親族故舊等ヨリ其申立ヲ爲スコトヲ許シタルハ是レ其死亡後ノ名譽ヲ重ンセシメンカ爲メナリ

第二 申立 申立人ハ其申立ト共ニ債務ノ全部ノ免責ヲ證スル書面又ハ其謄本

破産法

破産ヨリ生スル身上ノ效果 身上效果ノ理由 復權



ヲ提出スルコトヲ要ス(草案第三百五十五條)現行法ニ於テハ所在ノ知レサル爲メ辨償スルコト能ハサリシ債權者ノ爲メニスル準備及ヒ資力ニ付テハ其證明ヲ爲スコトヲ要スルモノトシ其證明書ハ勿論他ノ債權者ニ辨償シタル受取證等必要ナル證據物件ハ皆之ヲ添附スヘキモノトナセリ(商法第二百五條第二項)

第三 裁判 復權事件ノ管轄ハ破産裁判所トス是レ其審理ノ便利アルニ由ル而シテ裁判所ハ復權ノ申立カ不合法ナルトキ即チ申立人カ必要ナル書面ヲ提出セサルトキ又ハ復權ノ申立ニ必要ナル條件ノ具備セサルコトカ提出シタル書面ニ依リテ明カナルトキハ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス尤モ一定ノ期間内ニ欠缺ノ補正ヲ命スルコトヲ得(草案第三百五十五條)

裁判所ハ申立ヲ適法ナリト認メタルトキハ其申立ニ付キ異議アラハ三個月内ニ其申立ヲ爲スヘキ旨ヲ公告ス而シテ復權申立ニ關スル書類ハ裁判所書記課ニ備置キテ利害關係人ノ閱覽ニ供ス(草案第三百五十五條)現行法ニ於テハ異議申立期間ハ二個月ニシテ復權ノ申立ハ裁判所ノ揭示場ト取引所トニ揭示シ且裁判所ノ見込ニ依リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ノ爲メ檢事ニ通知ス(商法第四百一十條)

第四百一十條

裁判所ハ異議申立期間經過後復權申立人及ヒ異議申立アリタルトキハ異議申立人ヲ審訊シタル後復權ノ許否ニ付キ決定ヲ爲ス(草案第三百五十六條)現行法ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復權後ノ許否ニ付キ決定ヲ爲ス(商法第四百一十條)該決定ニ對シテ異議者若クハ申立人ヨリ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立テ得ルハ勿論トス而シテ現行法ニハ棄却セラレタル申立ヲ再ヒ申立ツルニ付テ期間ノ制限ヲ置ケルモ草案ハ之ヲ廢セリ(商法第四百一十條)而シテ許可ノ決定確定シタルトキハ其要領ヲ公告ス(草案第三百五十八條)

第四 效力 復權許可ノ決定ハ其確定ノ後ニアラサレハ其效力ヲ生セス(草案第三百五十七條)是レ普通ノ決定ノ如ク其確定前ニ效力ヲ有セシムルトキハ後ニ其許可ノ決定取消サル、トキハ不都合ノ結果ヲ生スルヲ以テナリ現行法ニ於テモ假執行ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セサル限りハ其確定ノ時ヨリ效力ヲ生スルヲ當然トス而シテ其時ヨリ破産者タル資格ヲ消滅セシムルニ至ルモノナリ

第十九章 支拂猶豫

破産法 支拂猶豫

## 第一 支拂猶豫ノ性質并ニ必要

支拂猶豫ノ制度ハ恰モ破産宣告前ニ於ケル辨濟期限猶豫ノ強制和議ニ該當スルモノナリ強制和議ハ既ニ述ヘタル如ク破産者ノ爲メニ破産手續ヲ終結セシムル強制的和解ナリ支拂猶豫ハ破産ノ宣告ヲ防止シテ辨濟ノ猶豫ヲ非破産者ニ與フル爲メノ強制的和解ナリ即チ一定ノ多數ノ承諾アルトキハ他ハ法律ノ力ヲ以テ服從ヲ強制スルモノナリ斯カル制度ヲ必要トスル所以ハ猶ホ破産宣告後ニ於ケル強制和議ヲ必要トスルカ如シ蓋シ破産手續ヲ一旦開始セハ強制的和議ノ場合ヲ除ク外破産財團ヲ總テ換價シテ之ヲ債權者ニ配當スルコトヲ目的トスルカ故ニ破産者ハ到底其營業ヲ再興スルコト能ハス加之其身上ニハ屈辱的ノ效果ヲ受ケテ公私權ノ上ニ制限ヲ受クルニ至ル又債權者ノ爲メヨリ云フモ破産手續ヲ開始スルトキハ之カ爲メニ多クノ費用ト勞力ト時間トヲ要シ多クハ所謂費用倒レトナリテ終ルモノナリ故ニ此等ノ諸弊ヲ除去スル爲メニ一時窮境ニ陥レル債權者ヲシテ破産手續ヲ開始スルニ至ラスシテ其營業ヲ繼續セシメ其逆境ヨリ脱出スルコトヲ圖リタルモノナリ然レトモ如何ナル債務

者ノ爲メニモ之ヲ許スニ非ス又之カ猶豫ヲ許ス期間ニモ制限無キニ非ス即チ其之ヲ許スハ唯リ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルヘカラサルニ至リタル債務者ニ限り又其猶豫ヲ許ス期間ハ一年ヲ超エサルモノトス又其延長モ一回ニ限リ一ケ年ヲ超エサル範圍内ニ於テ爲スコトヲ得ルニ過キサルモノトス(舊商法第十九條第二項)

然ルニ草案ニ於テハ支拂猶豫ノ制度ハ之ヲ廢止セリ是レ草案ハ現行法ニ比スレハ破産者ニ對シテ寛裕ナル主義ヲ取リタルト支拂猶豫ハ久シク之ヲ實施シタル歐洲諸國ニ在リテモ其結果良好ナラス猶豫期間内却テ債權者ヲ害スルカ如キ債務者ノ行爲ヲ生シ弊害ヲ生スルコトアルヲ慮レタルトニ由ルモノナリ

## 第二 支拂猶豫ノ成立

其成立ニハ債務者ノ申立ト債權者ノ承諾ト裁判所ノ認可トヲ必要トス

一 債務者ノ申立 現行法ハ商人ニノミ破産アリトノ主義ヲ採用シタルカ故ニ破産宣告ノ豫防タル支拂猶豫ノ申立モ亦唯リ商人ノミヨリ之ヲ爲スコトヲ得且商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止

セサルヘカラサルニ至リタル場合ニ於テノミ申立ツルコトヲ得ルモノトス  
 支拂ノ中止トハ猶支拂停止ト云フカ如シロイスラー氏原案ニハ同一ノ文字  
 ヲ使用セリ隨テ支拂猶豫ノ申立ヲ爲スニハ舊商法第千六十條第一號乃至第  
 三號ニ列擧シタル事項ヲ證明シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス  
 支拂猶豫事件ノ管轄裁判所ハ債務者ノ營業所所在地又ハ住所地ヲ管轄スル  
 裁判所ナリ管轄裁判所ハ適法ナル申立アリタルトキハ申立及ヒ添附書類ヲ  
 公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日ヲ定メテ  
 之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコトヲ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ノ  
 招集ヲ受ク茲ニ所謂債權者トハ債務者ノ提出シタル債權者名簿ニ記載スル  
 所ノモノ是ナリ  
 又裁判所ハ假ニ支拂猶豫ノ許可ヲ與フルコトヲ得是レ其間ニ破産宣告ニ至  
 ルコトアルヲ避ケンカ爲メナリ  
 二 債權者ノ承諾 債權者集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判  
 事ノ上席ヲ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論ヲ爲ス

其辯論及ヒ議決ニ付テハ調書ヲ作ル而シテ其申立ニ對スル承諾トシテハ第  
 千三十六條ニ掲ケタル過半数ノ議決ヲ必要トス(舊商法第千  
 六十一條)

三 裁判所ノ認可 裁判所ハ主任判事ノ演述ヲ聽キテ債權者ノ承諾アリタル  
 支拂猶豫ノ認否ニ付キ決定ノ形式ヲ以テ裁判ヲ爲ス認可ノ決定ヲ爲スニ付  
 テハ支拂猶豫ノ申立并ニ承諾カ法定ノ要件ニ適ヒタルヤ否ヤ又其承諾ノ決  
 議ヲ爲スニハ不正ノ手段ノ行ハレタルコトナキヤ否ヤ又其議決ハ債權者ノ  
 一般ノ利益ニ適スルヤ否ヤ等ヲ調査シテ之ヲ爲ス其認否ノ決定ニ對シテハ  
 不服者ヨリ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得(舊商法第千六  
 十二條第一項)

第三 支拂猶豫ノ效力

有效ナル支拂猶豫ノ成立シタルトキハ猶豫期間中其以前ニ取結ヒタル商取引  
 ヲヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受クルコトナシ是レ支拂猶  
 豫ノ效力ノ最モ主要ナルモノトス  
 支拂猶豫ノ期間ハ一ケ年以内ニ限ルト雖モ債務者其間ニ十分ナル資力ノ恢復  
 ヲ爲スコトヲ得スシテ債務者更ニ其申立ヲ爲ストキハ一回ニ限リ當初ノ如キ

手續ヲ履ミテ其期間ヲ延長スルコトヲ得其期間ハ是レ亦一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス

支拂猶豫ノ履行及ヒ業務ノ執行ニ關シテハ主任判事ノ監督ヲ受ク是レ尙ホ協  
諧契約ノ履行ハ破産主任官之ヲ爲スカ如シ

支拂猶豫ヲ得タル債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ支拂猶豫ノ爲ニ變  
更ヲ受クルコト無キハ勿論トス是レ協諧契約不履行ノ場合ニ於テ保證人ノ義  
務ヲ免レサルト一般ナリ(舊商法第千六十三條、第千四十三條、第千四十四條、第千四十五條)

第四 支拂猶豫ノ消滅

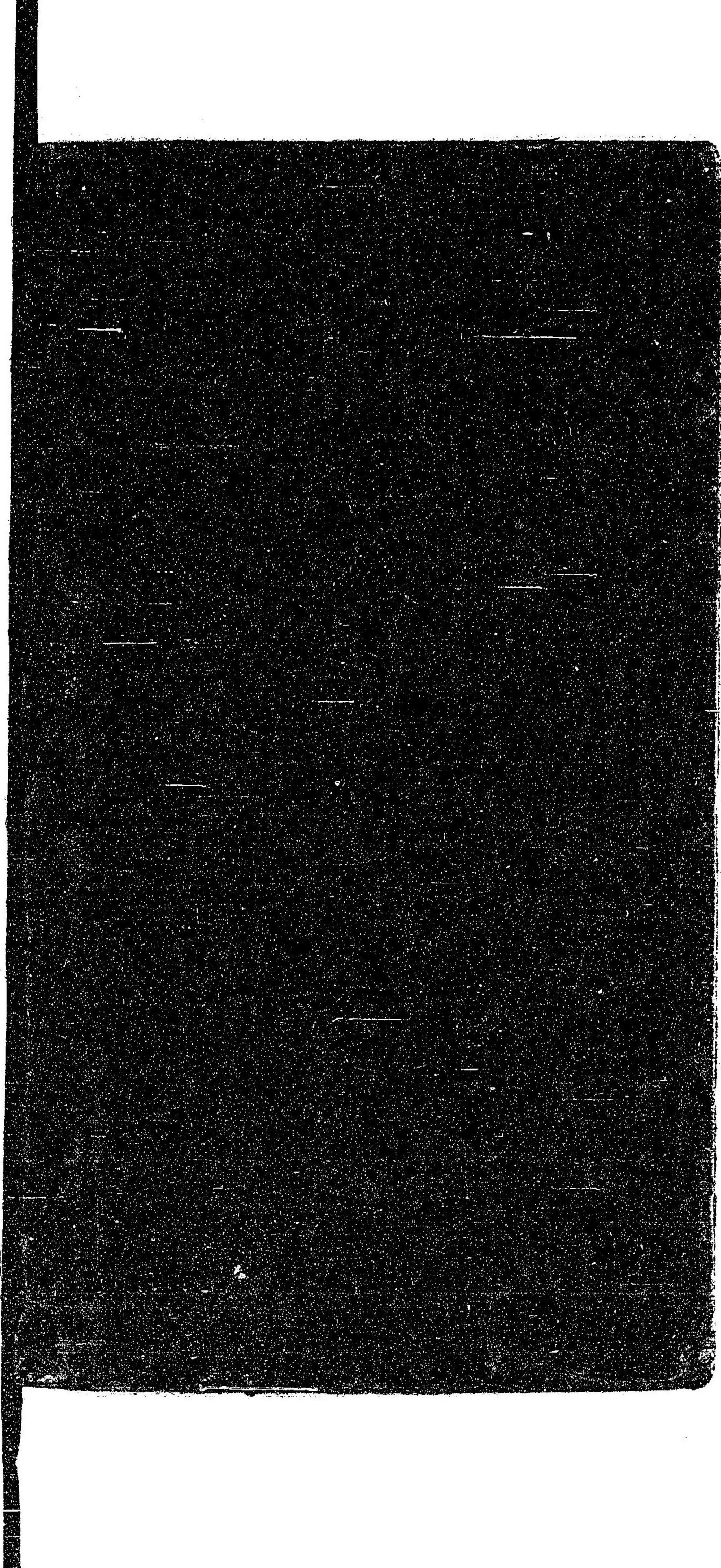
支拂猶豫カ債權者ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所之ヲ棄却シテ認可ヲ與ヘサルト  
キハ最初ヨリ該支拂猶豫ハ無效タルナリ又後日ニ至リ債務者ノ詐偽若クハ不  
正ノ爲メ若クハ法律上ノ條件ノ缺クルカ爲メ之ヲ廢止シタルトキ又ハ債務者  
ニ於テ其契約ヲ履行セサルトキ又ハ其猶豫期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債  
權者ヨリ強制執行ヲ爲ストキハ猶豫契約ハ其效力ヲ失ヒ直チニ債務者ニ對シ  
テ破産手續ヲ開始ス他ノ債權者トハ集會ニ參加シ猶豫契約ノ效力ヲ受クヘキ

者以外ノ債權者ヲ云フ此等ノ者カ個々ノ強制執行ヲ開始スルトキハ其者ノミ  
優先的辨濟ヲ受クルニ至リ破産財團ハ爲メニ減少シ不公平ヲ生スルヲ以テ直  
チニ破産手續ヲ開始スルノ優レルニ若カスト認メタルニ由ルモノナリ

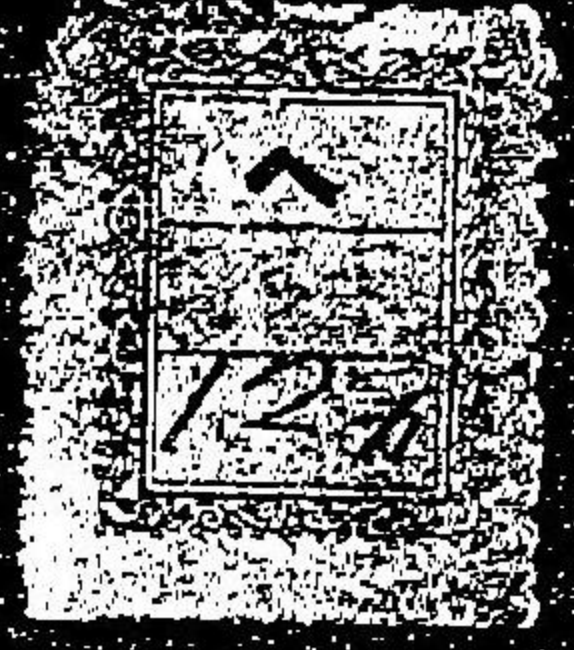
而シテ右ノ如ク猶豫契約ノ無效ナル場合ニ於テ破産手續ヲ開始スルニハ支拂  
停止ノ日時ヲ何レニカ定メサルヘカラス其日時ハ支拂猶豫申立ノ日附トナセ  
リ是レ支拂猶豫カ其效力ヲ失ヒタルニヨリ支拂停止ノ日時ヲ早クヨリ之ヲ認  
メテ以テ債權者保護ヲ計リタルモノナリ

^  
12p

12p



日本大學改訂一年度  
法 科第二學年講義錄



破  
産  
法

加  
藤  
正  
治

036982-000-6

へ-12カ

破産法

加藤 正治/述

[M41?]

BBS-0546

